# はじめに

平成 30 年度養豚農業実態調査は、養豚業におけるコスト削減や生産性の向上の取組等の実態把握・分析をすることにより、養豚経営の体質強化に資することを目的に、農林水産省所管の独立行政法人農畜産業振興機構からの補助を受けて実施するもので、養豚生産者を対象に実施しました。

具体的には、「都道府県にある養豚生産者組織」及び「当協会」が把握している全養豚生産者に対し調査票（3,240 件）を配布し、回答をいただきました。回答が得られたのは 875 件でした。このうち、経営中止、休業等の無効回答及び廃業を除いた 820 経営体について全国、地域別、子取り用雌豚頭数規模別等で集計・分析したものです。

基礎的な経営実態をみるため、経営形態、従業員数、後継者の有無、種豚頭数、飼養頭数、肉豚出荷状況、事故率、人工授精の実施状況、経営の動向、など定型設問のほか、最近の課題となっている給与飼料、人工授精における深部注入技術の導入、環境対策、アニマルウェルフェア、豚肉輸出、農場 HACCP・GAP などについて調査を行いました。

この調査結果が、養豚生産者の方々の今後のコスト削減や生産性向上のための参考として活用いただければ幸いです。

この報告書を作成するに当たり、調査に回答いただきました養豚経営者の方々、また、調査の御指導、調査票の回収及び記入内容のチェック等に御尽力いただきました方々に深謝申し上げます。

平成 31 年 3 月

一般社団法人日本養豚協会(JPPA)

## 調査結果の概要

平成30年度の調査は、「都道府県にある養豚生産者組織（以下「都道府県養豚協会」という）」及び「（一社）日本養豚協会」が平成30年8月1日現在確認できている養豚生産者を対象に調査を実施した。

本年度調査の30年度調査は、29年度と同様に原則経営体単位で集計した。

なお、回答数は、設問毎の回答数を示しているため、複数回答の設問については、回答数が回答経営体数を上回る場合がある。また、同じ項目でありながら回答数、回答経営体数に差異が生じているのは、クロス集計（経営タイプが一貫生産の子取り用雌豚頭数規模別の事故率等）の場合、対応する項目の回答数、回答経営体数が異なることによるものである。

### 1. 調査回答状況

平成30年度の調査は、都道府県養豚協会及び当協会が平成30年8月1日現在確認できている養豚生産者を対象(3,240件。前年度調査において調査票を配布し回答がなくても廃業報告がなされなかった者を含む）に調査を実施した。

回答が得られたのは875件（廃業等を含む）で、全国集計結果の集計に使用したのは回答の中から廃業、無効を除いた820経営体である。

（注）経営体数は、農場を複数有し、複数の都道府県に所在する経営体は都道府県ごとにカウントした。
ただし、当該経営体が複数県まとめて回答してきたものは、その場合は1経営体としてカウントした。

### 2. 経営関係

(1) 経営形態

| 経営形態 | 割合（%） |
|---|---|
| 個人経営（家族労働主体） | 36.8 |
| 農事組合法人 | 4.4 |
| 有限会社（LLC法人を含む） | 33.1 |
| 合資会社・合名会社 | 0.2 |
| 株式会社 | 20.2 |
| 農協等の直営農場 | 0.6 |
| その他（公益法人、学校法人等） | 4.7 |

(2) 経営タイプ（1経営体で複数の農場を有し、経営タイプが違う農場がある）

| 経営タイプ | 割合（%） |
|---|---|
| 一貫経営 | 85.9 |
| 繁殖経営 | 5.5 |
| 肥育経営 | 8.6 |

## 3. 養豚従事者数

従事者数に回答のあったのは809経営体で、従事者数合計は7,998.3人である。

従事者数の内訳は、家族1489.8人、常勤雇員5,716.5人、非常勤雇員196.0人、その他（豚肉加工、販売等）596.0人である。1経営体当たりの合計平均従事者数は9.9人、家族2.6人、常時雇用10.9人、非常勤雇用1.8人、その他12.7人である。

## 4. 後継者

| 後継者の有無 | 割合（%） | 平均年齢（歳） |
|---|---|---|
| 決まっている | 29.0 | 36.2 |
| 対象者はいるが決まっていない | 17.1 | 25.3 |
| 経営者が若いので考えていない | 10.6 | ― |
| 後継者はいない・考えていない | 24.1 | ― |
| 経営形態が後継者と関係がない | 19.2 | ― |

## 5. 飼養頭数

子取り用雌豚の全頭数は281,584 頭で、そのうち純粋種は31,445頭（11.2%）、交雑種は250,139頭（88.8%）である。交雑種の内訳は、LW:27.3%、WL:23.4%、LW、WLいずれか:18.0%、その他の組合せ:5.8%、海外ハイブリッド:25.5%である。

種雄豚の全頭数は9,547頭で、そのうち純粋種は8,037頭（84.2%）である。

## 6. 肉豚の出荷状況（平成29年1～12月成績）

| | |
|---|---|
| 平均肉豚出荷日齢 | 184. 3日齢 |
| 平均出荷時体重 | 114. 9kg |
| 平均枝肉重量 | 75. 2kg |
| 1 日平均増体量 | 641. 9 g |

## 7. 種雌豚の繁殖成績（平成29年1～12月の成績）

| | |
|---|---|
| 平均哺乳開始頭数 | 11.1頭 |
| 平均離乳頭数 | 10.0頭 |
| 平均育成率 | 89.0% |
| 平均受胎率 | 86.9% |
| 平均分娩率 | 85.0% |
| 平均分娩回数 | 2.2回 |

## 8. 事故率（平成29年1～12月の平均）

離乳後から出荷時までの通算事故率は6.5％、「5～9％」が全体の39.9％と最も多く、次いで「1～4％」が37.0％を占める。

## 9. 人工授精の実施状況

人工授精の実施経営体割合は、「自然交配を主とし、人工授精を従としている」、「人工授精を主とし、自然交配を従としている」及び「人工授精のみ」の合計が73.0％となっている。

人工授精の実施経営体のうち「人工授精の割合を増やしたい」が22.6％であった。

また、人工授精の未実施経営体のうち導入に意欲を持っている割合は39.5％であった。

## 10. 現在使用している飼料

| 給与飼料 | 割合（％） |
|---|---|
| 市販配合飼料のみ | 78.5 |
| 市販配合飼料＋自家配合飼料 | 15.7 |
| 自家配合飼料のみ | 5.8 |

| 給与飼料内容 | 割合（％） |
|---|---|
| 配合飼料 | 88.9 |
| 飼料用米 | 1.2 |
| エコフィード | 9.2 |
| その他 | 0.7 |

## 11. 飼養頭数の推移（前年と比較して）

繁殖豚では、「増やした」経営体数は12.6％、「変更していない」74.5％、「減らした」12.9％で、増やした頭数の合計は6,799頭、減らした頭数の合計は3,002頭で、「増やした」が3,797頭多い。

肥育豚では、「増やした」経営体数は15.1％、「変更していない」75.3％、「減らした」9.6％で、増やした頭数の合計は58,741頭、減らした頭数の合計は22,728頭で、「増やした」が36,013頭多い。

## 12. 養豚経営の今後の意向

今後の意向は「拡大する」29.1％、「現状維持」61.9％、「経営を縮小」9.0％で、約6割が「現状維持」、「縮小」よりも「拡大」の意向が多い。一方、「経営を縮小」の内訳では、「今年中」あるいは「近く廃業したいと考えている」との回答は、6割近い45経営体となった。

## 13. 衛生管理について

衛生管理について、オールイン・オールアウト(AI・AO)を「全ての豚舎において実施している」は20.1%、一部の豚舎において実施している」が32.4%と、合わせて52.5%がAI・AOを実施していると回答している。

ダウンタイムについては、「設けている」が37.0%、実施農場におけるダウンタイムの平均時間は「52.9時間」だった。

## 14. 環境対策

過去1年以内に住民等からの悪臭苦情を寄せられたことがある経営体は18.5%で、そのうちの52.7%は公的機関を通して苦情が寄せられている。

## 15. アニマルウェルフェア

経営体におけるアニマルウェルフェアの取組状況について、「知っている」が 80.9%となっている。そのうち、「アニマルウェルフェアの考え方を取り入れている」、「対応を検討中又は検討予定」を合わせて 30.9%となっている。

繁殖用雌豚の飼養管理にストールを常用しているかという設問について回答経営体の割合をみると、「している」が 91.6%となっており、そのうち 10.0%が今後群飼養を検討したいとしている。

去勢については 99.3%が実施、切歯については 63.6%が実施、断尾については 82.2%が実施と回答している。

## 16. 豚肉の海外輸出の取組み

生産している豚肉に係る海外輸出の取り組みについて、「すでに輸出している」が 1.1%、「販売・出荷した豚肉が輸出されたと聞いている」2.7%、「輸出について準備中」0.1%となっている。

また、「機会があれば輸出したい」は 6.0%となっている。

## 17. 農場 HACCP の導入の取り組み

農場 HACCP の導入について、導入している経営体は 10.5%となっており、導入していない経営体のうち「現在申請中」が 2.8%、「現在検討中」が 10.4%、「今後検討したい」が 24.5%となっている。

# 目　　次

調査回答状況…… 07
経営関係…… 08
従事者・後継者について…… 10
飼養頭数について…… 12
肉豚について…… 17
繁殖・肥育等の成績について…… 19
事故率について…… 22
交配について…… 24
飼料について…… 27
経営の推移と今後の動向…… 30
衛生管理について…… 41
環境対策について…… 43
アニマルウェルフェアについて…… 48
輸出について…… 52
農場 HACCP・GAP について …… 53

養豚農業実態調査票

# 調査回答状況

## ◆地域別・規模別回答状況

① 平成 30 年度の調査（平成 30 年 8 月 1 日現在）は、「平成 29 年度養豚基礎調査で回答があった養豚経営者または農場責任者」と「都道府県養豚協会等が確認できている養豚経営者又は農場責任者」を対象として 3,240 経営体に行い、回答が得られたのは 875 経営体（廃業 48 を含む）である。

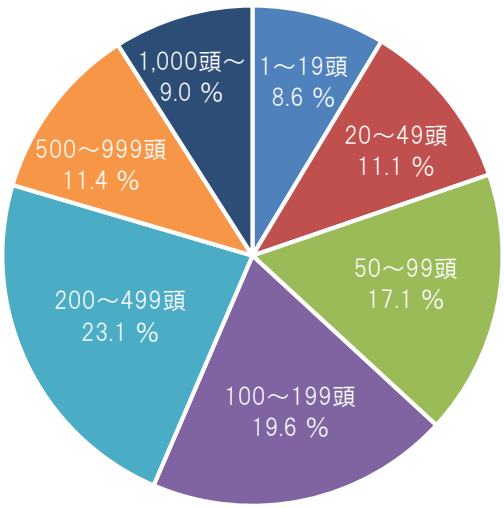
② 集計に使用したのは 820 経営体である。

③ 経営者の平均年齢は 58.8 歳で、前年より 0.4 歳高くなった。地域別では、最も平均年齢が高いのは「近畿」の 62.5 歳、最も低いのは「北海道・東北」「中国・四国」の 57.6 歳となっている。

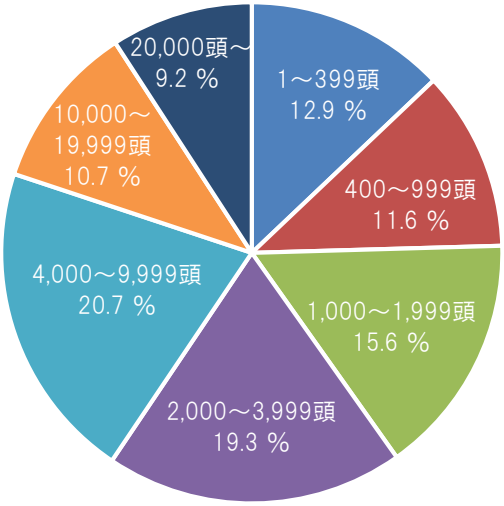
④ 子取り用雌豚飼養規模別では 200～499 頭が 23.1%、出荷頭数規模別では 4,000～9,999 頭が 20.7%と最も多かった。

［表1］回答状況・経営者性別・年齢：地域別（n＝820）

| | | 全　国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 回答数 | | 875 | 206 | 252 | 44 | 97 | 23 | 62 | 191 |
| 廃業報告 | | 48 | 7 | 9 | 0 | 7 | 3 | 2 | 20 |
| 無効回答数 | | 7 | 2 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| 有効回答数 | | 820 | 197 | 242 | 44 | 88 | 20 | 60 | 169 |
| 経営者の性別 | 男（人） | 738 | 189 | 218 | 40 | 80 | 15 | 51 | 145 |
| | 女（人） | 24 | 1 | 10 | 1 | 1 | 1 | 1 | 9 |
| | 不明（人） | 57 | 7 | 14 | 3 | 7 | 4 | 8 | 14 |
| 平均年齢（歳） | | 58.8 | 57.6 | 60.2 | 59.1 | 58.0 | 62.5 | 57.6 | 58.6 |
| 年齢の回答数 | | 820 | 197 | 242 | 44 | 88 | 20 | 60 | 169 |




［図１］回答割合（%）：子取り用雌豚飼養規模別




［図２］回答割合（%）：出荷頭数規模別

# 経営関係

## ◆経営形態

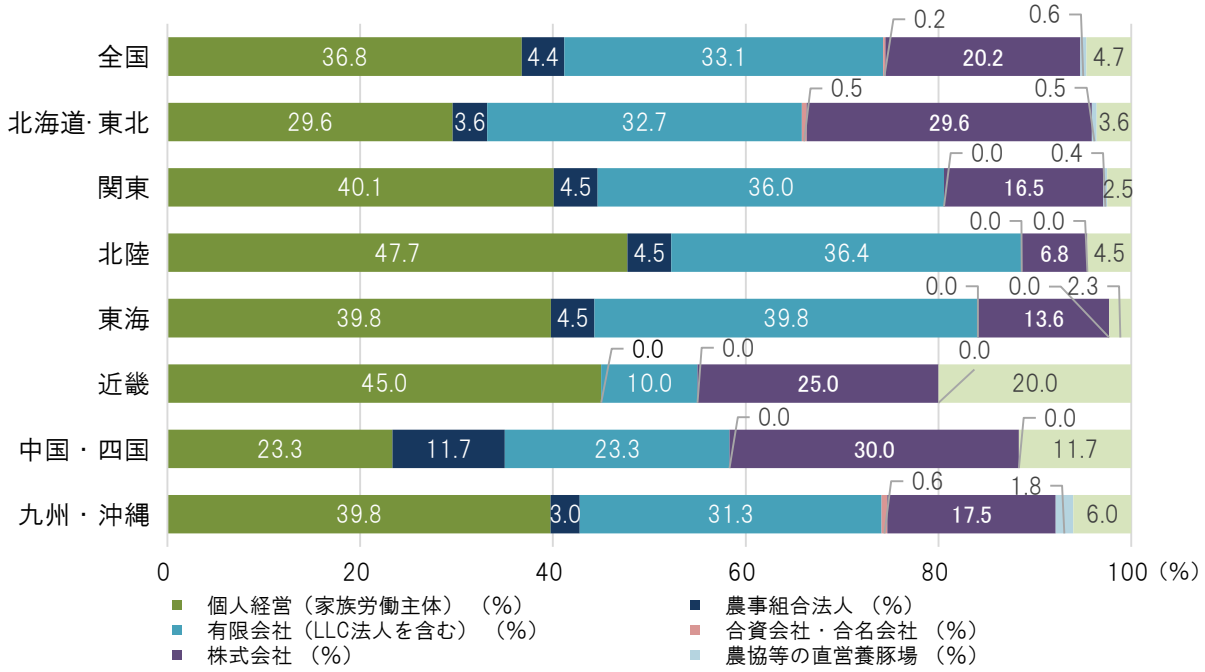
① 個人経営の割合が 300 経営体・36.8%と最も高いが、有限会社 270 経営体・33.1%との差が前年と比べ小さくなっている。

② 地域別にみると、「北海道・東北」で有限会社が個人経営を上回っているほか、「東海」では個人経営と有限会社が同率となっている。

［表 2］ 経営形態(経営体数):地域別(n=816)

| | 全国 | うち契約・預託 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 個人経営* | 300 | 1 | 58 | 97 | 21 | 35 | 9 | 14 | 66 |
| 農事組合法人 | 36 | 20 | 7 | 11 | 2 | 4 | 0 | 7 | 5 |
| 有限会社** | 270 | 4 | 64 | 87 | 16 | 35 | 2 | 14 | 52 |
| 合資会社・合名会社 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 株式会社 | 165 | 5 | 58 | 40 | 3 | 12 | 5 | 18 | 29 |
| 農協等の直営養豚場 | 5 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| その他*** | 38 | 0 | 7 | 6 | 2 | 2 | 4 | 7 | 10 |
| 合計 | 816 | 33 | 196 | 242 | 44 | 88 | 20 | 60 | 166 |

*家族労働主体　**LLC 法人を含む　***公益法人、学校法人等




［図 3］ 経営形態（%）：地域別（n=816）

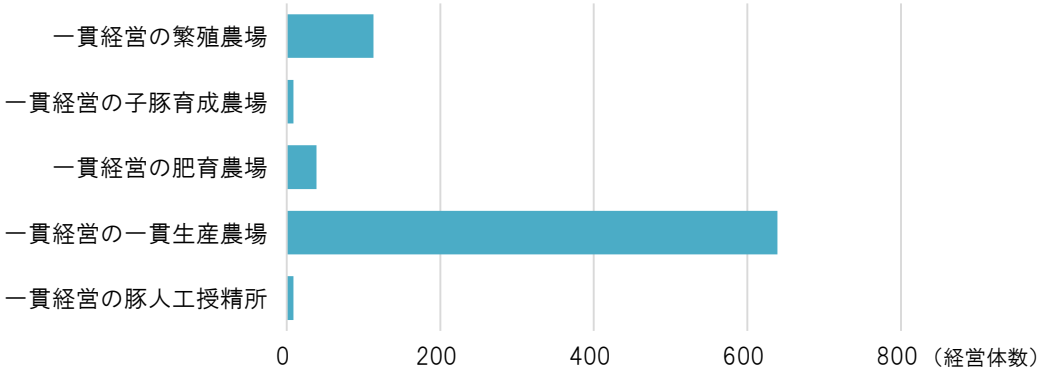
## ◆経営タイプ

① 経営タイプでは、一貫経営が 699（85.9%）と最も多く、次いで肥育経営が 70（8.6%）、繁殖経営 45（5.5%）となっている。

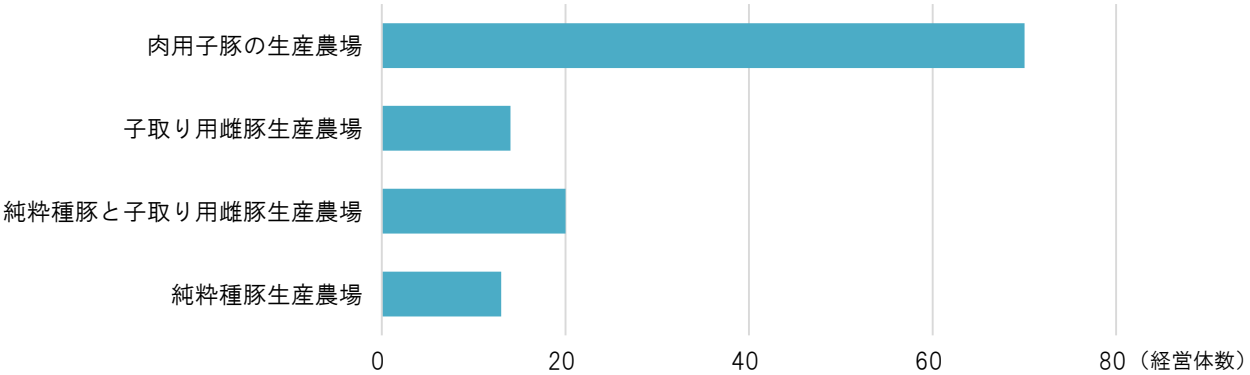
② 一貫経営数の内訳では「一貫経営の一貫生産農場」の戸数が最も多く、繁殖農場の内訳では「肉用子豚の生産農場」が最も多かった。

［表 3］ 経営タイプ：地域別（n=814）

| | | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一貫経営 | 経営体数 | 699 | 172 | 215 | 39 | 74 | 13 | 51 | 135 |
| | 割合（%） | 85.9 | 86.4 | 88.8 | 90.7 | 86.0 | 68.4 | 89.5 | 80.4 |
| 繁殖経営 | 経営体数 | 45 | 12 | 9 | 1 | 7 | 0 | 3 | 13 |
| | 割合（%） | 5.5 | 6.0 | 3.7 | 2.3 | 8.1 | 0.0 | 5.3 | 7.7 |
| 肥育経営 | 経営体数 | 70 | 15 | 18 | 3 | 5 | 6 | 3 | 20 |
| | 割合（%） | 8.6 | 7.5 | 7.4 | 7.0 | 5.8 | 31.6 | 5.3 | 11.9 |
| 合計 | 経営体数 | 814 | 199 | 242 | 43 | 86 | 19 | 57 | 168 |
| | 割合（%） | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 回答経営体数 | 回答数 | 814 | 199 | 242 | 43 | 86 | 19 | 57 | 168 |




［図 4］ 一貫経営の内訳：複数回答可・全国（n=699）




［図 5］ 繁殖経営の内訳：複数回答可・全国（n=45）

# 従事者・後継者について

## ◆従業員数

① 養豚従事者数に回答のあった経営体は 809 で、常勤雇員が最も多く 5,717 人、次いで家族 1,490 人だった。前年の常勤雇員 5,385 人、家族 1,504 人からそれぞれ 6%増、1%減となっている。非常勤雇員は 196 人、その他 596 人、前年比では５%減、43%減となっており、全体数では 2%減となった。

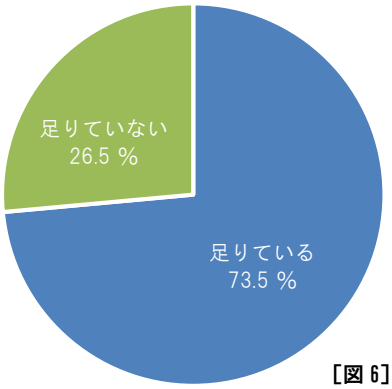
② 従事者の数については、「足りている」が 73.5%と約 7 割が充足していると回答した。

③ 規模別の平均従事者数では、常勤雇員の数・その他（豚肉加工・販売）の人数とも、500 頭規模以上で従事者が大きく増加している。

**[表 4] 雇用形態別養豚従事者人数:複数回答可・全国(n=809)**

| 従事者 | 回答数 | 割合（%） | 従事者合計（人） | 従事者割合（%） | 平均値 | 最大値 | 最小値 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 家族労働* | 565 | 69.8 | 1,489.8 | 18.6 | 2.6 | 20 | 1 |
| 常勤雇員 | 524 | 64.8 | 5,716.5 | 71.4 | 10.9 | 215 | 1 |
| 非常勤雇員** | 112 | 13.8 | 196.0 | 2.5 | 1.8 | 14 | 1 |
| その他*** | 47 | 5.8 | 596.0 | 7.5 | 12.7 | 279 | 1 |
| 合計 | 1,248 | 147.5 | 7,998.3 | 100.0 | 9.9 | 441 | 1 |

*経営主本人、配偶者、きょうだい、子、孫、父母、祖父母等 **社員、契約社員、パート、アルバイト ***豚肉加工・販売など担当




**[図 6] 従業員の充足度:全国（n=722）**

**[表 5] 雇用形態別養豚従事者平均人数:複数回答可・子取り用雌豚飼養規模別(n=712)**

| | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 家族労働* | 2.7 | 1.5 | 2.0 | 2.4 | 3.0 | 3.4 | 3.0 | 3.4 |
| 常勤雇員 | 11.5 | 3.2 | 3.9 | 3.7 | 2.6 | 5.9 | 15.6 | 42.3 |
| 非常勤雇員** | 1.7 | 1.4 | 1.6 | 1.2 | 1.9 | 1.6 | 2.3 | 2.5 |
| その他*** | 13.7 | 3.3 | 1.8 | 2.7 | 3.3 | 5.3 | 20.8 | 71.4 |

*経営主本人、配偶者、きょうだい、子、孫、父母、祖父母等 **社員、契約社員、パート、アルバイト ***豚肉加工・販売など担当

## ◆後継者について

① 後継者に回答のあったのは 791 経営体で、うち「決まっている」が 29.0%（229）で候補者の平均年齢は 36.2 歳、「対象者はいるが、現在は決まっていない」が 17.1%で対象者の平均年齢は 25.3 歳。「後継者はいない・考えていない」が 24.1%だった。前年比でそれぞれ、0.1%増、0.3%減、0.1%増となっており、大きな変動はみられなかった。

② 「経営形態が後継者と関係がない」は 19.2%で、前年度の 17.9%から 1.3%増となっている。

③ 子取り用雌豚規模別では、最も（後継者が）「決まっている」との回答が多かったのが 100～199 頭規模で、同規模では 46.5%の農場で後継者が決まっているとなっている。逆に最も「後継者がいない・考えていない」と回答したのは 50～99 頭規模で、同規模の約 50%に後継者がいないとの結果が出ている。

**［表 6］後継者の有無・平均年齢：全国（n=791）**

| | 回答数 | 割合（%） | 年齢回答経営体数 | 平均年齢 |
|---|---|---|---|---|
| 決まっている | 229 | 29.0 | 221 | 36.2 |
| 対象者はいるが、現在は決まっていない | 135 | 17.1 | 114 | 25.3 |
| 自分の年齢が若いので考えていない | 84 | 10.6 | — | — |
| 後継者はいない・考えていない | 191 | 24.1 | — | — |
| 経営形態が後継者と関係がない（株式会社等） | 152 | 19.2 | — | — |
| 合計 | 791 | 100.0 | — | — |

**［表 7］後継者の有無・平均年齢：子取り用雌豚飼養規模別（n=707）**

| | | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 決まっている | 回答数 | 215 | 4 | 12 | 34 | 65 | 61 | 21 | 18 |
| | 回答割合（%） | 30.4 | 6.6 | 15.0 | 28.1 | 46.5 | 37.4 | 26.3 | 29.0 |
| 対象者はいるが、現在は決まっていない | 回答数 | 122 | 6 | 16 | 11 | 21 | 40 | 11 | 17 |
| | 回答割合（%） | 17.3 | 9.8 | 20.0 | 9.1 | 15.0 | 24.5 | 13.7 | 27.4 |
| 自分の年齢が若いので考えていない | 回答数 | 77 | 1 | 4 | 11 | 23 | 19 | 12 | 7 |
| | 回答割合（%） | 10.9 | 1.6 | 5.0 | 9.1 | 16.4 | 11.7 | 15.0 | 11.3 |
| 後継者はいない・考えていない | 回答数 | 161 | 25 | 39 | 60 | 23 | 12 | 2 | 0 |
| | 回答割合（%） | 22.8 | 41.0 | 48.8 | 49.6 | 16.4 | 7.4 | 2.5 | 0.0 |
| 経営形態が後継者と関係がない | 回答数 | 132 | 25 | 9 | 5 | 8 | 31 | 34 | 20 |
| | 回答割合（%） | 18.7 | 41.0 | 11.2 | 4.1 | 5.7 | 19.0 | 42.5 | 32.3 |

# 飼養頭数について

## ◆子取り用雌豚

① 子取り用雌豚の全頭数は 281,584 頭で、前年の 292,682 頭から 3.8%減となっている。そのうち純粋種は 31,445 頭(11.2%)。地域別では九州・沖縄地方が 16.2%と比較的純粋種の飼養率が高いが、これはバークシャーの飼養頭数（8,166 頭）が全国の約 84.6%を占めていることが大きい。

② 純粋種で最も頭数が多かったのはランドレースの 10,555 頭で、純粋種中の約 33.6%、全子取り用雌豚中の約 3.7%となっている。

［表 8］子取り用雌豚飼養頭数：地域別(n=717)

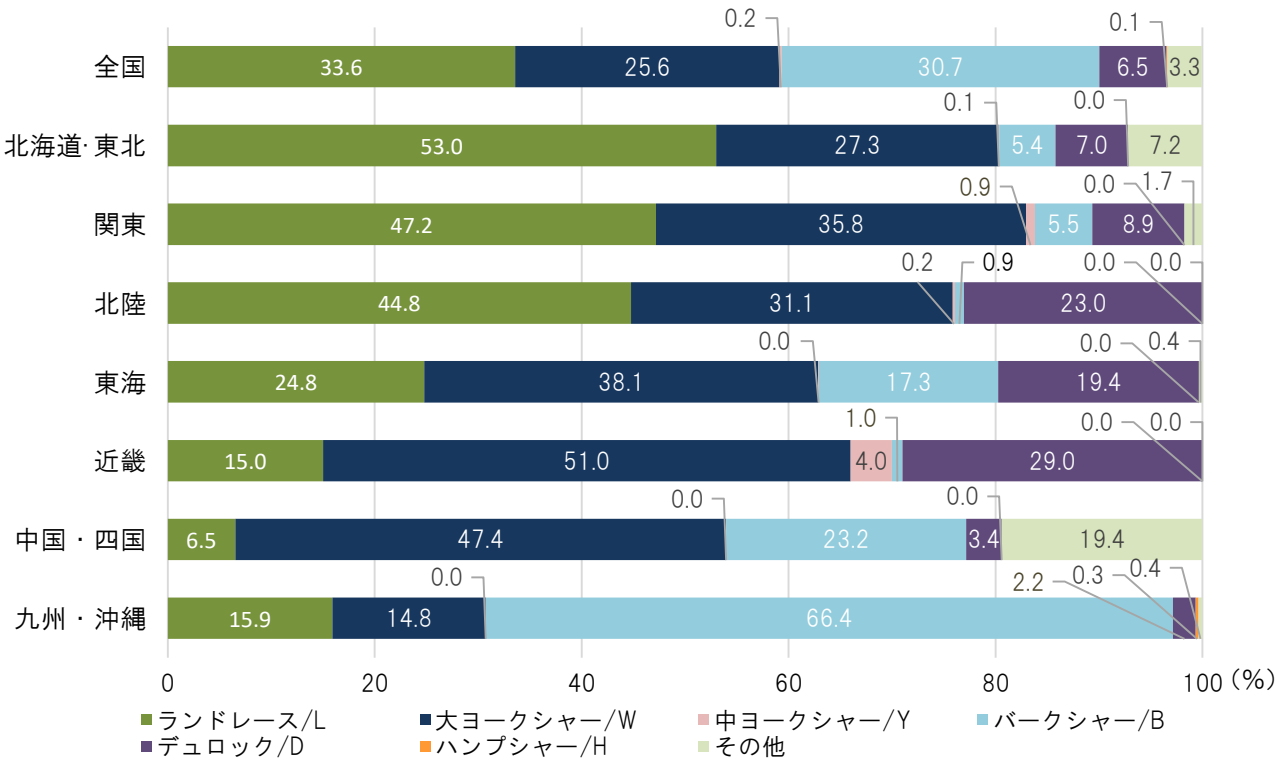
| | | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 純粋種 | 頭数 | 31,445 | 9,434 | 5,813 | 460 | 2,274 | 100 | 1,073 | 12,291 |
| | 割合（%） | 11.2 | 11.3 | 7.9 | 6.6 | 11.8 | 6.8 | 5.1 | 16.2 |
| 交雑種 | 頭数 | 250,139 | 74,028 | 67,527 | 6,481 | 16,924 | 1,373 | 20,049 | 63,757 |
| | 割合（%） | 88.8 | 88.7 | 92.1 | 93.4 | 88.2 | 93.2 | 94.9 | 83.8 |
| 合計 | 頭数 | 281,584 | 83,462 | 73,340 | 6,941 | 19,198 | 1,473 | 21,122 | 76,048 |
| | 割合（%） | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 地域別割合 | （%） | 100.0 | 29.6 | 26.0 | 2.5 | 6.8 | 0.5 | 7.5 | 27.0 |

［表 9］子取り用雌豚飼養頭数・品種別：地域別(n=717)

| | | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 純粋種 | ランドレース/L | 10,555 | 5,000 | 2,743 | 206 | 564 | 15 | 70 | 1,957 |
| | 大ヨークシャー/W | 8,042 | 2,575 | 2,079 | 143 | 866 | 51 | 509 | 1,819 |
| | 中ヨークシャー/Y | 62 | 6 | 50 | 1 | 1 | 4 | 0 | 0 |
| | バークシャー/B | 9,650 | 514 | 322 | 4 | 394 | 1 | 249 | 8,166 |
| | デュロック/D | 2,062 | 662 | 519 | 106 | 441 | 29 | 37 | 268 |
| | ハンプシャー/H | 34 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 34 |
| | その他 | 1,040 | 677 | 100 | 0 | 8 | 0 | 208 | 47 |
| | 小計 | 31,445 | 9,434 | 5,813 | 460 | 2,274 | 100 | 1,073 | 12,291 |
| 交雑種 | LW | 68,253 | 16,992 | 23,381 | 3,024 | 3,995 | 308 | 4,510 | 16,043 |
| | WL | 58,484 | 12,161 | 16,164 | 1,226 | 6,055 | 208 | 1,376 | 21,294 |
| | LW、WLいずれか | 45,069 | 12,291 | 18,259 | 421 | 1,706 | 14 | 992 | 11,386 |
| | その他の組合せ | 14,454 | 4,742 | 4,068 | 1,666 | 898 | 10 | 2,281 | 789 |
| | 海外ハイブリッド | 63,879 | 27,842 | 5,655 | 144 | 4,270 | 833 | 10,890 | 14,245 |
| | 小計 | 250,139 | 74,028 | 67,527 | 6,481 | 16,924 | 1,373 | 20,049 | 63,757 |
| 合計 | | 281,584 | 83,462 | 73,340 | 6,941 | 19,198 | 1,473 | 21,122 | 76,048 |

［表 10］子取り用雌豚頭数：複数回答可・全国(n=717)

| | | 全国回答数（複数回答可） | | | 全国頭数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 回答数 | 回答割合（%） | 平均頭数（頭） | 子取り用雌豚（頭） | 頭数割合（%） | 全頭数割合（%） |
| 純粋種 | ランドレース/L | 198 | 27.6 | 53.3 | 10,555 | 33.6 | 3.7 |
| | 大ヨークシャー/W | 147 | 20.5 | 54.7 | 8,042 | 25.6 | 2.9 |
| | 中ヨークシャー/Y | 9 | 1.3 | 6.9 | 62 | 0.2 | 0.0 |
| | バークシャー/B | 68 | 9.5 | 141.9 | 9,650 | 30.7 | 3.4 |
| | デュロック/D | 147 | 20.5 | 14.0 | 2,062 | 6.5 | 0.8 |
| | ハンプシャー/H | 1 | 0.1 | 34.0 | 34 | 0.1 | 0.0 |
| | その他 | 15 | 2.1 | 69.3 | 1,040 | 3.3 | 0.4 |
| | 小計 | 585 | — | 90.6 | 31,445 | 100.0 | 11.2 |
| 交雑種 | LW | 335 | 46.7 | 203.7 | 68,253 | 27.3 | 24.2 |
| | WL | 136 | 19.0 | 430.0 | 58,484 | 23.4 | 20.8 |
| | LW、WLいずれか | 90 | 12.6 | 500.8 | 45,069 | 18.0 | 16.0 |
| | その他の組合せ | 67 | 9.3 | 215.7 | 14,454 | 5.8 | 5.1 |
| | 海外ハイブリッド | 113 | 15.8 | 565.3 | 63,879 | 25.5 | 22.7 |
| | 小計 | 741 | — | 396.4 | 250,139 | 100.0 | 88.8 |
| 合計 | | 1,326 | — | 392.7 | 281,584 | — | 100.0 |



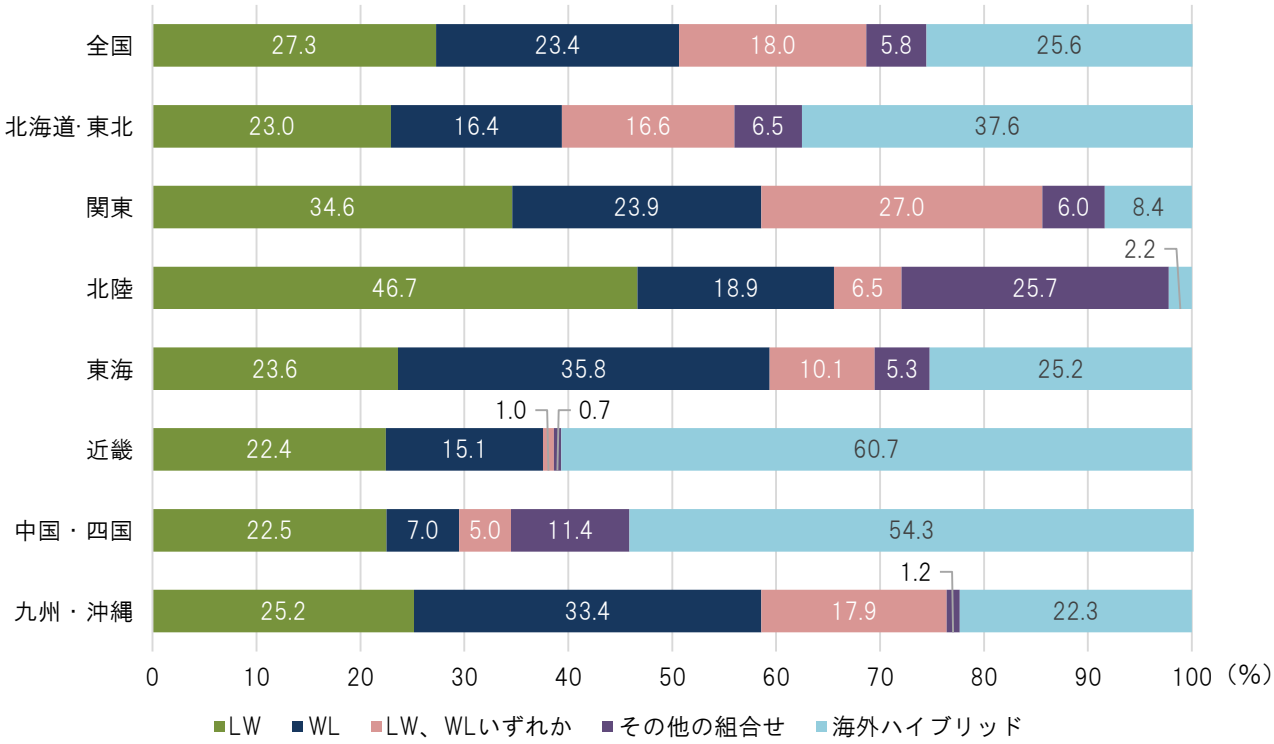

［図 7］純粋種の飼養頭数割合（%）：複数回答可・地域別(n=347)

③　交雑種で最も飼養頭数が多いのはLWで68,253頭、次いで海外ハイブリッドで63,879頭だった。

④　海外ハイブリッドの品種で回答が多かったのは、ハイポー（72農場）、ケンボロー（51農場）、Topigs（17農場）、チョイス・ジェネティクス（11農場）などであった。

⑤　海外ハイブリッドは、近畿、中国・四国地方で多くみられ、近畿で60.7%、中国地方で54.1%と半数以上が海外ハイブリッドを利用した生産を行っている。

⑥　なお海外の高能力母豚については、海外ハイブリッドとする農場とWLとする農場があり、実際にはさらに多くの高能力母豚が国内で利用されているものと思われる。




**[図 8] 交雑種の飼養頭数割合（%）：地域別(n=631)**

**[表 11] 子取り用雌豚規模割合(%)：地域別(n=719)**

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1～ 19頭 | 8.6 | 10.2 | 5.1 | 5.0 | 8.5 | 30.8 | 16.0 | 8.6 |
| 20～ 49頭 | 11.1 | 13.0 | 8.3 | 20.0 | 9.8 | 15.4 | 8.0 | 12.1 |
| 50～ 99頭 | 17.1 | 7.3 | 21.7 | 27.5 | 24.4 | 7.7 | 22.0 | 14.3 |
| 100～ 199頭 | 19.6 | 12.4 | 28.1 | 20.0 | 23.2 | 30.8 | 6.0 | 17.1 |
| 200～ 499頭 | 23.1 | 24.3 | 22.6 | 22.5 | 19.5 | 7.7 | 26.0 | 25.0 |
| 500～ 999頭 | 11.4 | 19.2 | 6.0 | 2.5 | 12.2 | 7.7 | 14.0 | 11.4 |
| 1,000頭以上 | 9.0 | 13.6 | 8.3 | 2.5 | 2.4 | 0.0 | 8.0 | 11.4 |

## ◆種雄豚

① 種雄豚の全体頭数は 9,547 頭で、前年の 10,666 頭から約 10.5%減となっている。純粋種の総頭数は 8,037 頭、最も多く利用されているのはデュロックの 6,084 頭で純粋種の約 75.7%である。

② 地域別では、種雄豚が多いのは「関東」2,554 頭、「北海道・東北」2,553 頭、「九州・沖縄」2,532 頭の順で、この地域で全体の約 80%を占めている。

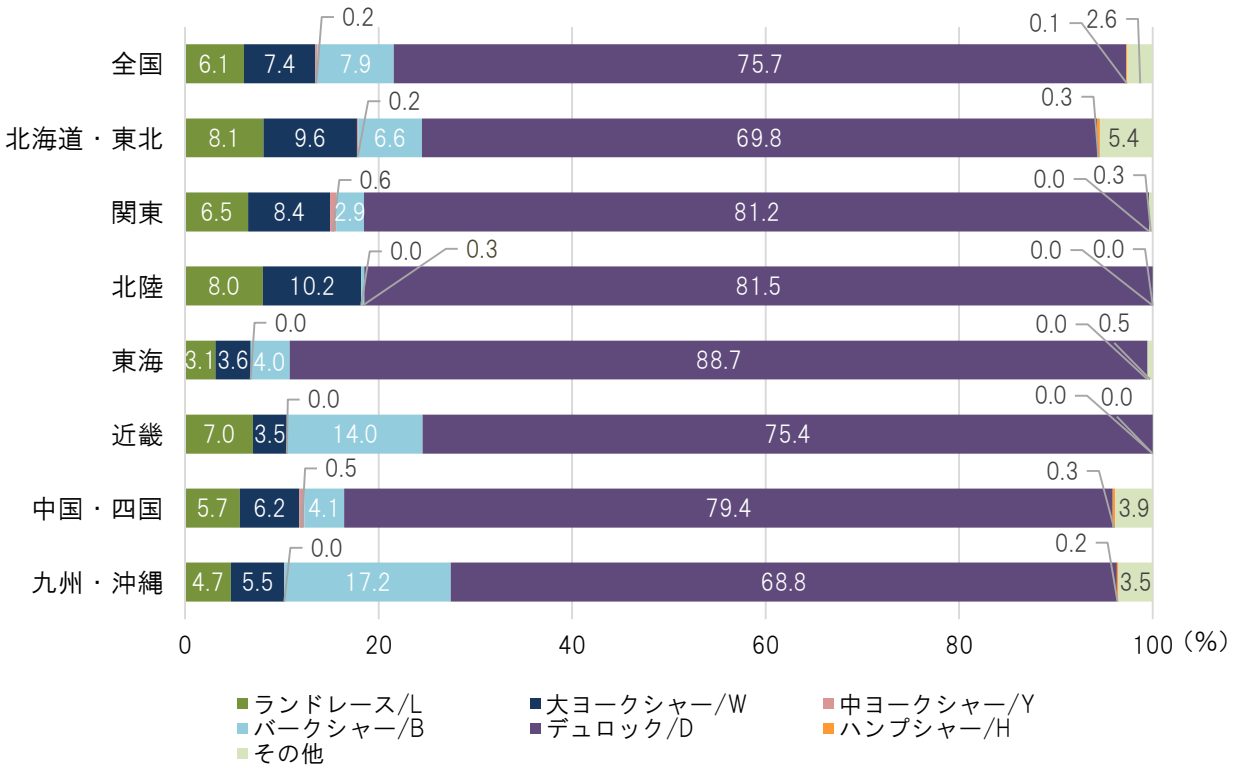
③ 主な海外ハイブリッドの品種としては、ハイポー（74 農場）、ケンボロー（47 農場）、チョイス・ジェネティクス（7 農場）となっている。

［表 12］種雄豚飼養頭数：地域別(n=662)

| | | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 純粋種 | 頭数 | 8,037 | 1,876 | 2,357 | 324 | 795 | 57 | 389 | 2,239 |
| | 割合（%） | 84.2 | 73.5 | 92.3 | 97.3 | 86.0 | 98.3 | 65.6 | 88.4 |
| 交雑種 | 頭数 | 1,510 | 677 | 197 | 9 | 129 | 1 | 204 | 293 |
| | 割合（%） | 15.8 | 26.5 | 7.7 | 2.7 | 14.0 | 1.7 | 34.4 | 11.6 |
| 合計 | 頭数 | 9,547 | 2,553 | 2,554 | 333 | 924 | 58 | 593 | 2,532 |
| | 割合（%） | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 地域別割合 | （%） | 100.0 | 26.7 | 26.8 | 3.5 | 9.7 | 0.6 | 6.2 | 26.5 |

［表 13］種雄豚飼養頭数・品種：地域別(n=662)

| | | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 純粋種 | ランドレース/L | 489 | 152 | 154 | 26 | 25 | 4 | 22 | 106 |
| | 大ヨークシャー/W | 592 | 181 | 199 | 33 | 29 | 2 | 24 | 124 |
| | 中ヨークシャー/Y | 20 | 3 | 15 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| | バークシャー/B | 633 | 123 | 68 | 1 | 32 | 8 | 16 | 385 |
| | デュロック/D | 6,084 | 1,309 | 1,913 | 264 | 705 | 43 | 309 | 1,541 |
| | ハンプシャー/H | 11 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 4 |
| | その他 | 208 | 102 | 8 | 0 | 4 | 0 | 15 | 79 |
| | 小計 | 8,037 | 1,876 | 2,357 | 324 | 795 | 57 | 389 | 2,239 |
| 交雑種 | HD | 4 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | DH | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | BD | 11 | 0 | 0 | 1 | 3 | 1 | 2 | 4 |
| | DB | 45 | 0 | 29 | 0 | 16 | 0 | 0 | 0 |
| | その他の組合せ | 219 | 65 | 75 | 8 | 2 | 0 | 29 | 40 |
| | 海外ハイブリッド | 1,231 | 612 | 91 | 0 | 108 | 0 | 173 | 247 |
| | 小計 | 1,510 | 677 | 197 | 9 | 129 | 1 | 204 | 293 |
| 合計 | | 9,547 | 2,553 | 2,554 | 333 | 924 | 58 | 593 | 2,532 |




**[図 9] 種雄豚（純粋種）の飼養頭数割合：地域**

## ◆全体頭数

① 平成 30 年度の豚の飼養頭数は、子取り用雌豚が 281. 584 頭、種雄豚 9, 547 頭、育成豚（繁殖予定で未利用の雄または雌豚）52, 644 頭、子豚 1, 258, 447 頭、肥育豚 1, 724, 500 頭で、全飼養頭数で 3, 326, 722 頭となっている。

② 平均飼養頭数は、子取り用雌豚で 392. 7 頭、全体の飼養頭数で 4, 227. 1 頭となっている。

**[表 14] 飼養頭数：全国(n=787)**

| | 全国 | | |
|---|---|---|---|
| | 回答数 | 頭数合計 | 頭数平均 |
| 子取り用雌豚* | 717 | 281,584 | 392.7 |
| 種雄豚* | 662 | 9,547 | 14.4 |
| 育成豚** | 579 | 52,644 | 90.9 |
| 子豚*** | 624 | 1,258,447 | 2,016.7 |
| 肥育豚**** | 663 | 1,724,500 | 2,601.1 |
| 飼養頭数合計 | 787 | 3,326,722 | 4,227.1 |

*育成豚を除く　**繁殖利用予定で見交配の雌または雄

***子豚舎・子豚豚房で飼養しているもの+哺乳中のもの　****肥育舎・肥育豚房で飼養しているもの

# 肉豚について

## ◆総出荷頭数

① 総出荷頭数は、肉豚出荷のほか、繁殖豚（子取り用雌豚・雄豚）の廃用、子豚出荷（販売などのほか、同一経営の農場間移動も含む)、種豚候補豚の出荷など、農場から外部に出荷したすべての豚の頭数を調べたものである。

② 肉豚を出荷している経営体は 774 で、年間（平成 29 年 1～12 月）の肉豚出荷頭数は 6070, 562 頭で、1 経営体当たり平均 7, 843. 1 頭である。

③ 子豚を出荷している経営体は 172 経営体で、年間（平成 29 年 1～12 月）の総出荷頭数は 1760, 365 頭で、1 経営体当たり平均 10, 234. 7 頭である。

[表 15] 総出荷頭数:全国(n=794)

| | 回答数 | 頭数合計 | 1経営当たり平均頭数 |
|---|---|---|---|
| 年間肉豚出荷頭数 | 774 | 6,070,562 | 7,843.1 |
| 繁殖豚（雄、雌）年間廃用頭数 | 666 | 133,783 | 200.9 |
| 年間肉用子豚出荷（同一経営の農場間移動を含む）頭数 | 172 | 1,760,365 | 10,234.7 |
| 種豚候補豚（純粋・Ｆ１等）の出荷（同一経営の農場間移動含む）頭数 | 153 | 109,963 | 718.7 |

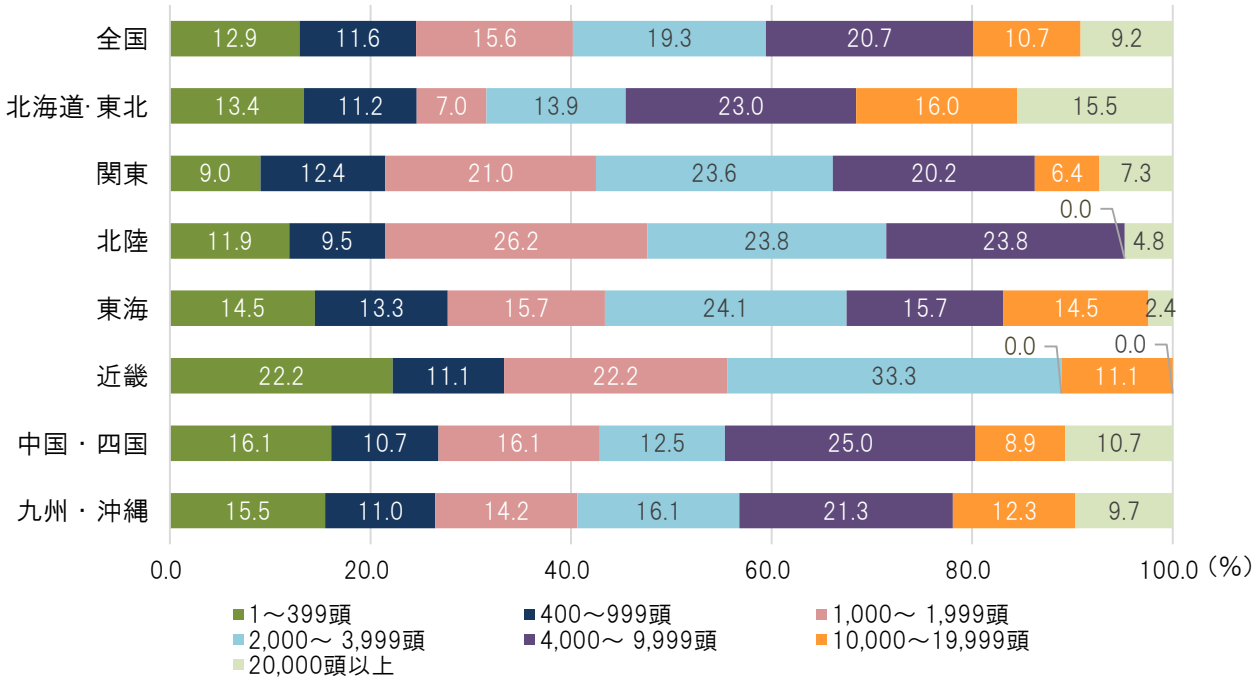
## ◆肉豚出荷頭数

① 年間肉豚出荷頭数を出荷規模別でみると、4,000～9,999 頭の経営体数割合（回答割合）が 20.7%と最も高く、次いで 2,000～3,999 頭が 19.3%、1,000～1,999 頭が 15.6%となっている。

② 一方、頭数割合では、20,000 頭以上が 54.7%、10,000～19,999 頭が 18.1%、4,000～9,999 頭が 16.4%で、この 3 階層の経営体（40.6%）で出荷頭数の 89.2%を占めている。

[表 16] 年間肉豚出荷頭数:全国(n=774)

| | 回答数 | 回答割合（%） | 頭数 | 頭数割合（%） |
|---|---|---|---|---|
| 1～399頭 | 100 | 12.9 | 14,905 | 0.2 |
| 400～999頭 | 90 | 11.6 | 60,853 | 1.0 |
| 1,000～1,999頭 | 121 | 15.6 | 171,642 | 2.8 |
| 2,000～3,999頭 | 149 | 19.3 | 409,903 | 6.8 |
| 4,000～9,999頭 | 160 | 20.7 | 994,334 | 16.4 |
| 10,000～19,999頭 | 83 | 10.7 | 1,097,850 | 18.1 |
| 20,000頭以上 | 71 | 9.2 | 3,321,075 | 54.7 |
| 合計 | 774 | 100.0 | 6,070,562 | 100.0 |




**[図 10] 肉豚出荷規模別経営体割合（%）：地域別（n=774）**

## ◆肉豚出荷日齢

① 肉豚の平均出荷時日齢は 184.3 日で、前年の 185.7 日から約 1.4 日短くなっている。出荷時の生体重は 114.9kg で前年の 114.1kg から＋0.8kg、平均枝肉重量は 75.2kg で前年の 75.1kg より＋0.1kg となっている。1 日平均増体量は、649.1g で前年の 634g から 15.1g 増えており、発育は早くなっているが、歩留まりには大きな変化はないことがわかる。

② 地域別でみると、出荷日齢では「九州・沖縄」の 197.4 日が最も長い。これは、主産地である鹿児島県において飼養日数の長いバークシャーの頭数が多いことが影響していると思われる。

③ 出荷日齢が最も短いのは「北陸」の 174.4 日、1 日平均増体量が最も大きいのは「北海道・東北」の 664.9kg だった。出荷時の生体重が最も大きいのは「近畿」の 118.1kg で、枝肉重量が最も大きいのも「近畿」の 78.6kg である。

**[表 17] 肉豚出荷日齢:地域別(n=738)**

| | 全国 | 北海道･東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 肉豚出荷日齢平均* （日齢） | 184.3 | 178.1 | 183.6 | 174.4 | 182.0 | 192.8 | 180.8 | 197.4 |
| 肉豚出荷生体重平均 （kg） | 114.9 | 116.1 | 114.8 | 114.9 | 113.2 | 118.1 | 115.5 | 113.8 |
| 肉豚１頭当たり枝肉重量平均 （kg） | 75.2 | 75.8 | 75.6 | 75.1 | 74.4 | 78.6 | 74.7 | 74.1 |
| １日平均増体重** （g/日） | 634.3 | 664.9 | 628.7 | 664.4 | 643.9 | 621.3 | 642.0 | 590.6 |

*生後日数　**出荷生体重÷出荷日齢

# 繁殖・肥育等の成績について

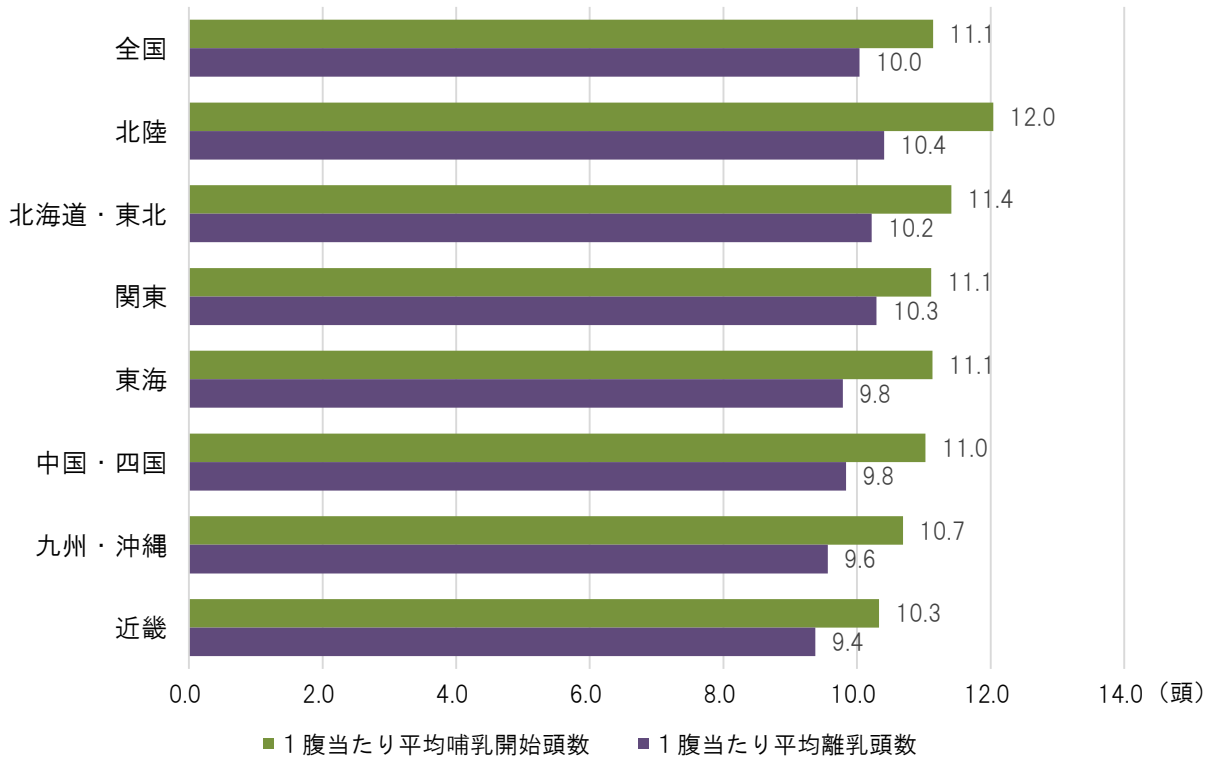
## ◆繁殖成績

① 1腹当たりの平均哺乳開始頭数は 11.1 頭で前年度から－0.1 頭、平均離乳頭数は 10.0 頭で前年比－0.1 頭、平均育成率は 89.0%で前年より－1.5%と、繁殖成績はほぼ横ばいだが微減傾向にある。また、平均受胎率は 86.9%で前年比－1%、平均分娩率は 85%で前年比－2.7%、平均分娩回数は 2.2 回で前年比-0.1 回とこちらも微減傾向だった。

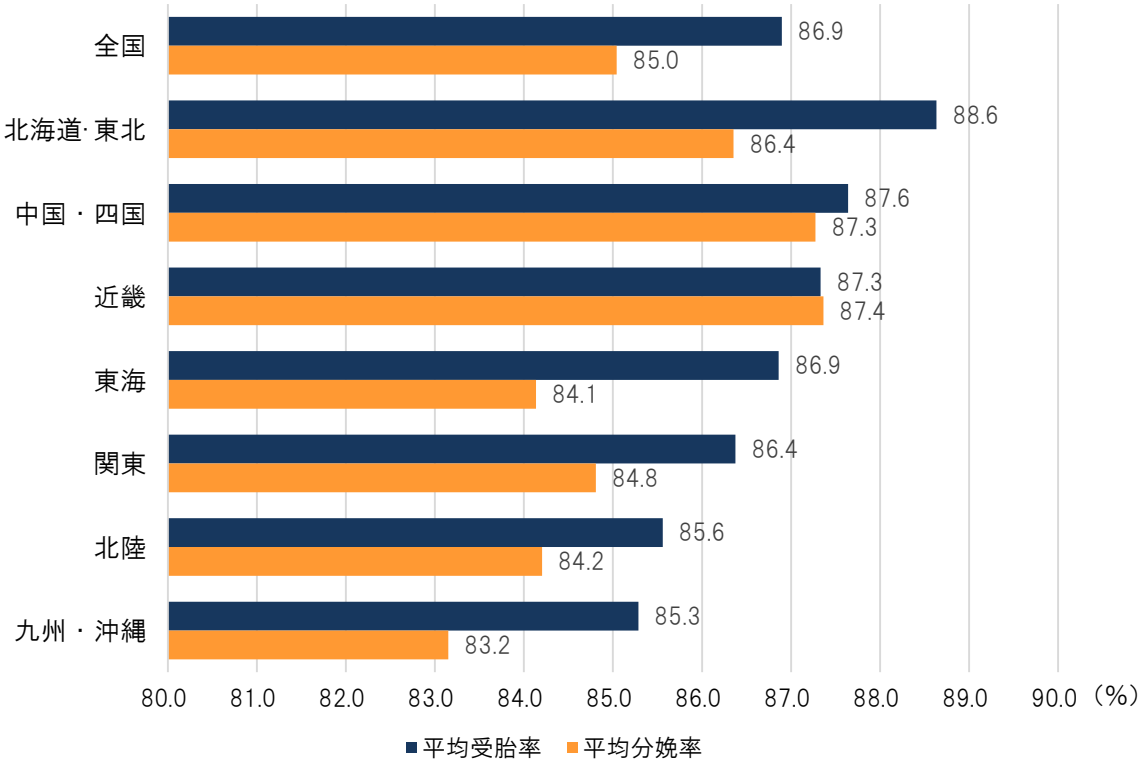
② すべての項目で全国を上回るのは、「北海道・東北」のみである。

[表 18] 繁殖成績：地域別(n=696)

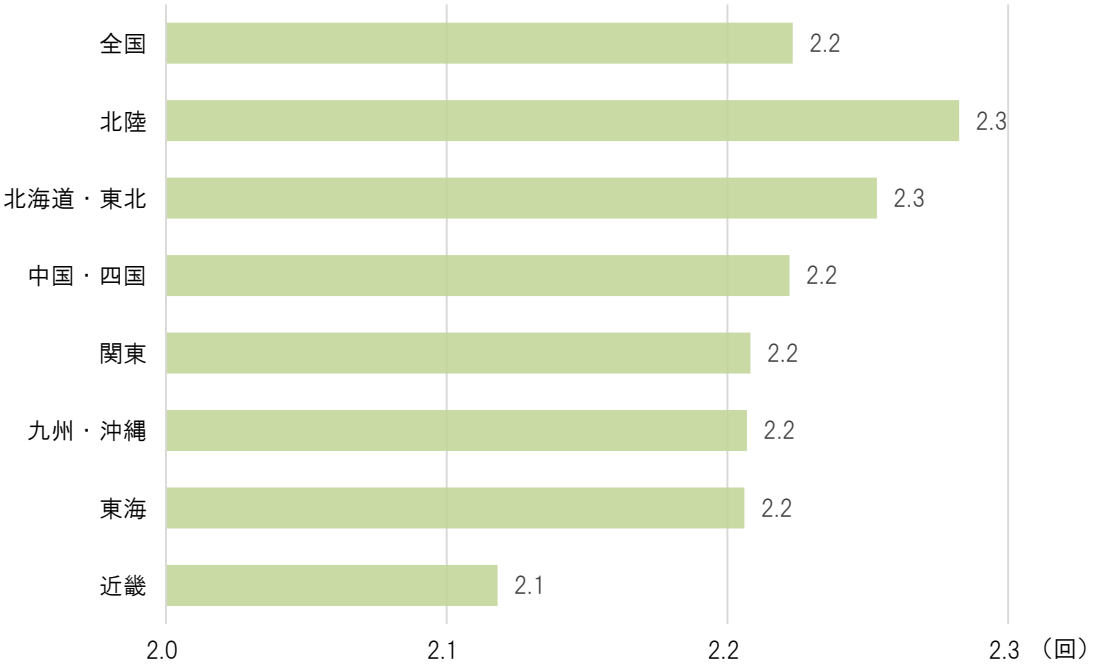
| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1腹当たり平均哺乳開始頭数 （頭） | 11.1 | 11.4 | 11.1 | 12.0 | 11.1 | 10.3 | 11.0 | 10.7 |
| 1腹当たり平均離乳頭数 （頭） | 10.0 | 10.2 | 10.3 | 10.4 | 9.8 | 9.4 | 9.8 | 9.6 |
| 平均育成率 （%） | 89.0 | 89.7 | 88.0 | 88.5 | 88.5 | 90.3 | 89.3 | 89.6 |
| 平均受胎率 （%） | 86.9 | 88.6 | 86.4 | 85.6 | 86.9 | 87.3 | 87.6 | 85.3 |
| 平均分娩率 （%） | 85.0 | 86.4 | 84.8 | 84.2 | 84.1 | 87.4 | 87.3 | 83.2 |
| 母豚の年間平均分娩回数 （頭） | 2.2 | 2.3 | 2.2 | 2.3 | 2.2 | 2.1 | 2.2 | 2.2 |




[図 11] 1腹当たりの平均哺乳頭数・離乳頭数：地域別(n=696)・上位順




**[図 12] 平均受胎率・平均分娩率：地域別（n=696）・上位順**




**[図 13] 平均年間分娩回数：地域別（n=696）・上位順**

## ◆格付・上物率・相対取引について

① 肉豚の格付方法については、単一の格付方法を用いている経営体と複数の格付方法を用いている経営体があるが、格付方法を延べ経営体数でみると、「格付している」肉豚を有する経営体は 95.0%で、そのうち「日格協（日本食肉格付協会）の格付」は 85.1%、「自主格付」は 19.4%である。
② 上物率は「九州・沖縄」が最も高く 62.5%だった。
③ 相対取引を実施しているとの回答は 176 であった。
④ 飼料要求率は、「北海道・東北」「関東」と東日本で低い傾向がみられた。

［表 19］格付実施率：地域別(n=664)

| | | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 格付している | 回答割合（%） | 95.0 | 97.0 | 93.9 | 100.0 | 97.1 | 100.0 | 96.0 | 90.8 |
| | 平均格付率（%） | 97.5 | 98.6 | 96.8 | 99.9 | 97.7 | 100.0 | 94.4 | 96.9 |
| ・日格協の格付 | 回答割合（%） | 85.1 | 92.1 | 75.6 | 97.4 | 91.2 | 100.0 | 92.0 | 79.2 |
| | 平均格付率（%） | 91.9 | 95.7 | 86.1 | 98.2 | 89.0 | 100.0 | 94.1 | 92.2 |
| ・自主格付 | 回答割合（%） | 19.4 | 8.5 | 35.0 | 7.9 | 20.6 | 0.0 | 4.0 | 20.8 |
| | 平均格付率（%） | 73.9 | 81.1 | 73.6 | 88.4 | 66.7 | 0.0 | 100.0 | 71.3 |
| 格付していない | 回答割合（%） | 8.3 | 6.1 | 9.6 | 0.0 | 5.9 | 0.0 | 10.0 | 13.1 |
| | 平均非格付率（%） | 79.5 | 89.8 | 77.5 | 0.0 | 77.5 | 0.0 | 84.1 | 74.9 |

［表 20］平均上物率：地域別(n=626)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 上物率 | 53.3 | 52.1 | 52.4 | 50.7 | 50.7 | 37.0 | 53.4 | 62.5 |

［表 21］相対取引実施状況：全国(n=589)

| | | 回答経営体数 | 割合（%） | 平均枝重（kg） | 最高 | 最低 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 実施している | 契約枝重下限（kg） | 176 | 29.9 | 67.1 | 75.0 | 55.0 |
| | 契約枝重上限（kg） | | | 82.4 | 88.0 | 72.0 |
| 実施していない | | 413 | 70.1 | － | － | － |
| 合計 | | 589 | 100.0 | － | － | － |

［表 22］飼料要求率：地域別(n=428)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 飼料要求率 | 3.4 | 3.3 | 3.3 | 3.4 | 3.7 | 3.9 | 3.5 | 3.5 |

# 事故率について

## ◆事故率

① 【事故率の算出方法】期間内の離乳後から出荷時の事故頭数÷期間内の総離乳頭数×100

② 事故率の全国平均は 6.5%で、前年より－3.2%となっている。最も高い地域は「中国･四国」の 9.3%、次いで「九州・沖縄」の 7.7%、最も低いのは「近畿」の 4.7%で、「北陸」の 4.8%も僅差で低い数字となっている。

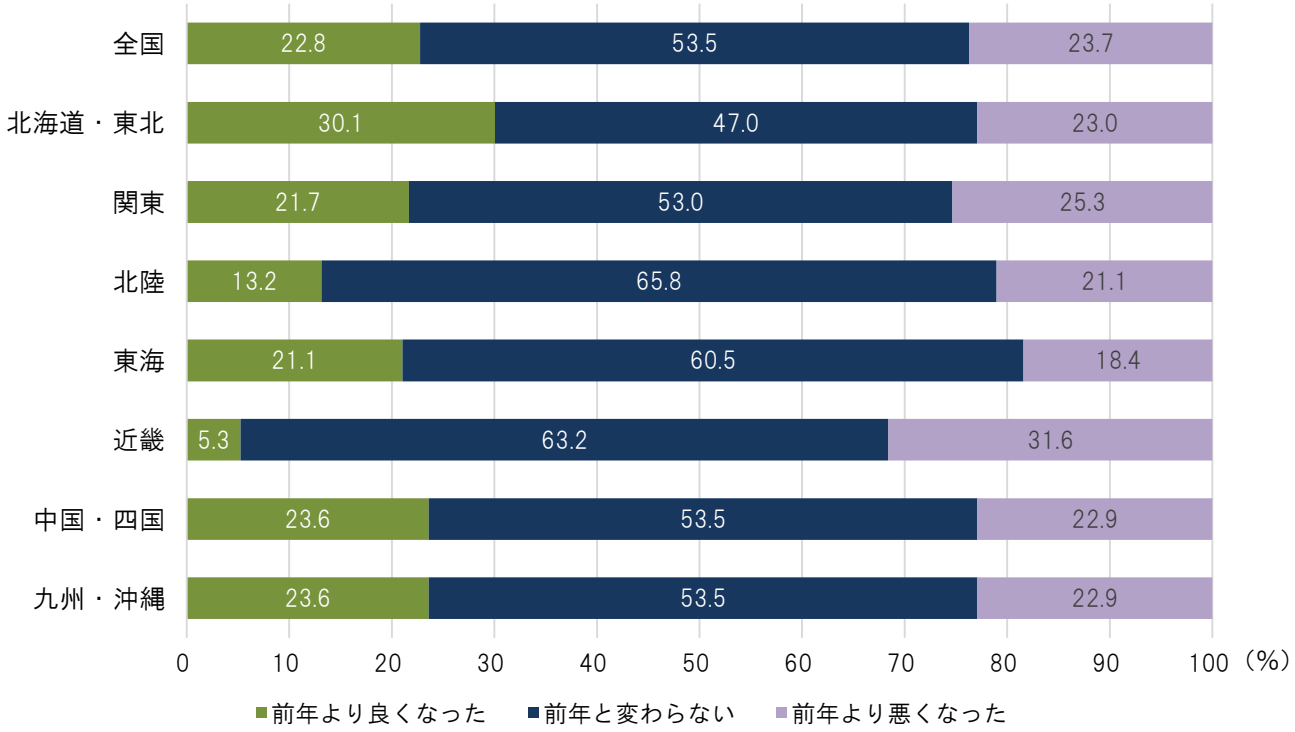
③ 事故率の前年比については、53.5%が「前年と変わらない」と回答した。「前年より良くなった」との回答が最も多かったのは「北海道・東北」の 30.1%、「前年より悪くなった」との回答が最も多かったのは「近畿」の 31.6%だった。

④ 事故率の回答割合で最も多かったのは「5～9%」の 39.9%だった。

⑤ 事故率改善に対して、対策をとった農場は 83%。最もとられた改善対策は「衛生対策」74.1%だった。衛生対策の中で最も取られた改善方法は「豚舎消毒の徹底」51.3%、「ワクチネーションプログラムの見直し、変更」40%、「管理獣医師による検査と指導の導入」30.3%となっている。

［表 23］離乳後事故率(%):地域別(n=562)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事故率（%） | 6.5 | 5.6 | 6.3 | 4.8 | 6.3 | 4.7 | 9.3 | 7.7 |




［図 14］事故率の動向：地域別（n=729）

[表 24] 事故率の回答割合(%):地域別(n=572)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ～ 1%未満 | 5.8 | 5.1 | 3.7 | 6.0 | 3.5 | 21.4 | 6.2 | 8.9 |
| 1～ 4% | 37.0 | 52.6 | 30.3 | 48.5 | 37.5 | 42.9 | 29.2 | 22.8 |
| 5～ 9% | 39.9 | 31.0 | 48.8 | 39.4 | 41.1 | 21.4 | 39.6 | 41.6 |
| 10～14% | 11.7 | 8.2 | 14.8 | 6.1 | 14.3 | 7.2 | 8.3 | 14.8 |
| 15～19% | 2.8 | 1.9 | 1.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 10.4 | 5.9 |
| 20～24% | 0.9 | 0.0 | 1.2 | 0.0 | 0.0 | 7.1 | 0.0 | 2.0 |
| 25～29% | 0.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.8 | 0.0 | 2.1 | 3.0 |
| 30～34% | 0.7 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 1.8 | 0.0 | 2.1 | 1.0 |
| 35～39% | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 40%以上 | 0.3 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 2.1 | 0.0 |

## ◆事故率改善の対策

[表 25] 事故率改善対策の実施割合(%):複数回答可・地域別(n=753)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 対策を実施した | 83.0 | 82.1 | 84.1 | 82.1 | 72.8 | 63.2 | 82.8 | 91.1 |
| A豚舎の新築、改築 | 18.7 | 14.7 | 20.0 | 23.1 | 13.6 | 10.5 | 15.5 | 26.0 |
| B生産方式の変更 | 7.0 | 8.4 | 6.4 | 7.7 | 7.4 | 0.0 | 5.2 | 7.5 |
| C生産環境の改善 | 31.1 | 35.8 | 30.0 | 43.6 | 22.2 | 21.1 | 34.5 | 28.1 |
| D衛生対策 | 74.1 | 74.2 | 76.4 | 69.2 | 60.5 | 47.4 | 72.4 | 83.6 |
| Eその他 | 2.7 | 2.1 | 3.6 | 2.6 | 4.9 | 5.3 | 1.7 | 0.7 |
| 対策は実施していない | 21.8 | 24.2 | 19.5 | 25.6 | 29.6 | 36.8 | 29.3 | 11.6 |

[表 26] 表 25D の衛生対策の実施内容(%):複数回答可・地域別(n=558)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 農場衛生HACCPの導入 | 8.5 | 10.0 | 11.4 | 2.6 | 3.7 | 5.3 | 6.9 | 7.5 |
| 疾病予防マニュアルの見直し、徹底 | 26.3 | 28.9 | 24.1 | 25.6 | 14.8 | 10.5 | 37.9 | 30.1 |
| 管理獣医師による検査と指導の導入 | 30.3 | 33.2 | 33.2 | 28.2 | 23.5 | 10.5 | 22.4 | 32.2 |
| 豚舎消毒の徹底 | 51.3 | 57.4 | 45.5 | 53.8 | 37.0 | 36.8 | 48.3 | 62.3 |
| 施設のゾーニング | 6.4 | 7.4 | 5.0 | 7.7 | 4.9 | 5.3 | 6.9 | 7.5 |
| ワクチネーションプログラムの見直し、変更 | 40.0 | 38.4 | 46.4 | 43.6 | 28.4 | 21.1 | 31.0 | 43.8 |

# 交配について

## ◆交配の回数

① 発情期の基本交配回数は「2～3 回」が 93.2%と最も多く、次いで「1 回」の 5.6%である。
② 地域別でみても、ほぼ同様な傾向にある。2～3 回の交配回数が最もスタンダードな方法といえる。

［表 27］ 交配実施回数(%):地域別(n=736)

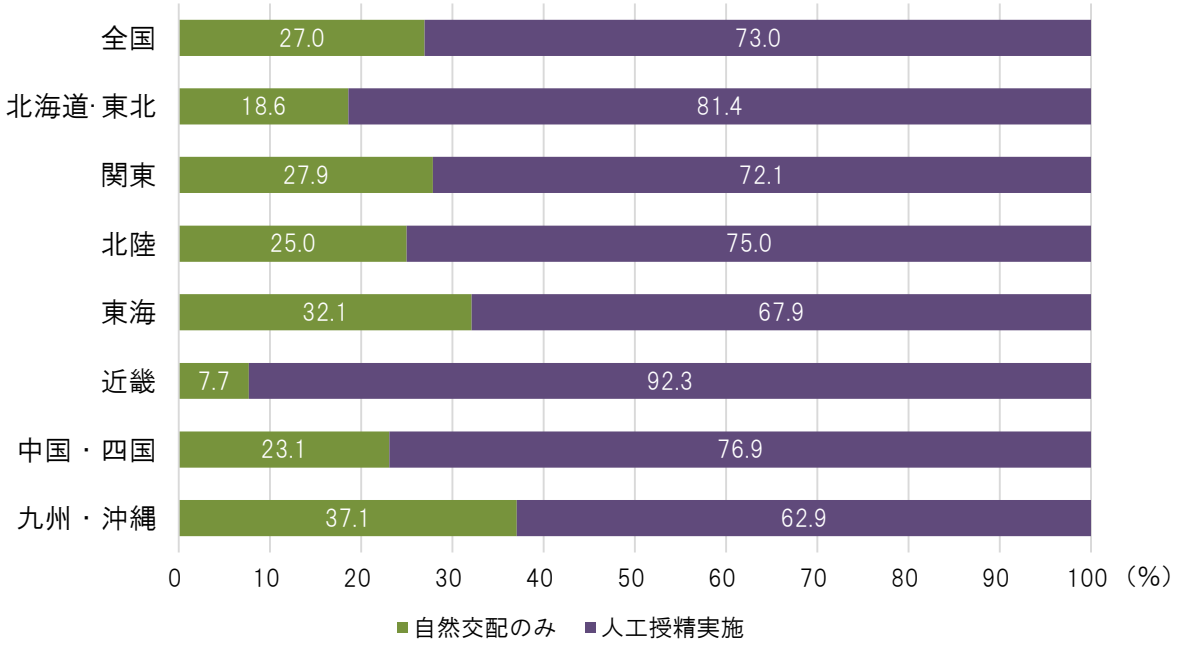
| | 全国 | 北海道･東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1回 | 5.6 | 3.3 | 8.8 | 5.1 | 4.9 | 7.7 | 5.8 | 3.5 |
| 2～3回 | 93.2 | 96.7 | 89.4 | 94.9 | 93.8 | 76.9 | 94.2 | 95.1 |
| 4回以上 | 1.2 | 0.0 | 1.8 | 0.0 | 1.2 | 15.4 | 0.0 | 1.4 |
| 不明 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

## ◆交配方法

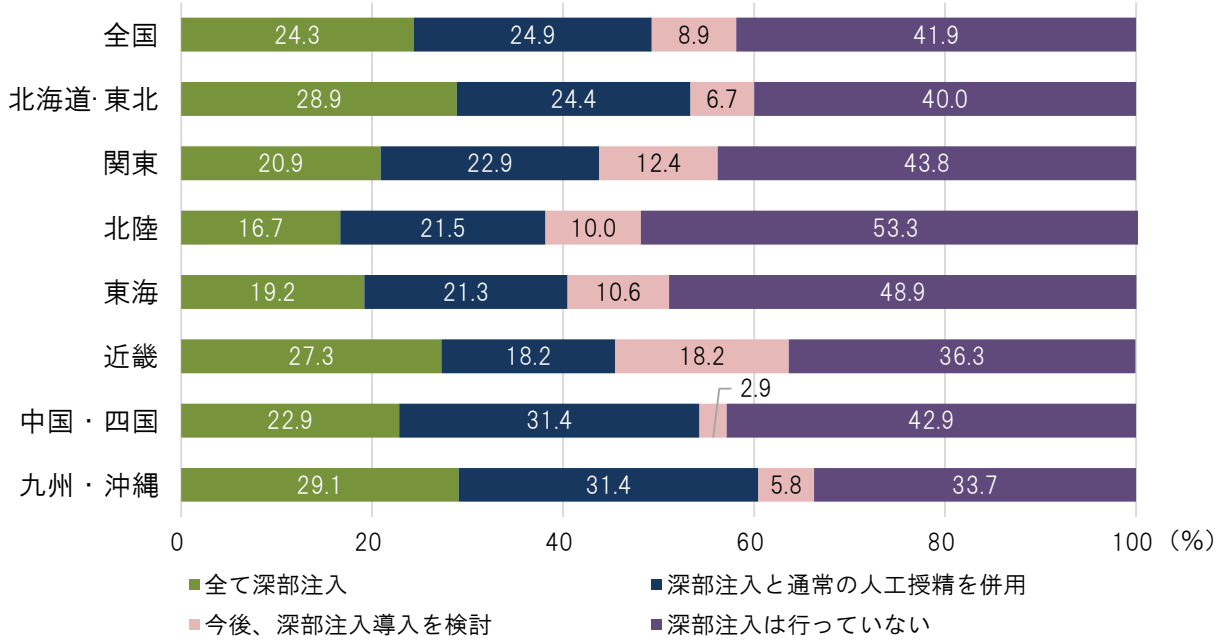
① 人工授精の実施経営体割合は 73.0%で、前年より＋1.4%、「人工授精のみ」の割合は 29.0%で、同様に＋3.8%となっている。人工授精の導入率が高くなっていることがうかがえる。
② 地域別では、「近畿」が 92.3%と最も高く、「東海」が 67.9%と最も低い。
③ 人工授精実施農場における深部注入の実施状況としては、「全て深部注入」24.3%、「深部注入と通常の人工授精を併用」24.9%で、合わせて 49.2%の農場が深部注入を実施している。全て深部注入で行っている率の最も高い地域は、「九州・沖縄」の 29.1%、次いで「北海道・東北」の 28.9%となっている。
④ 逆に、最も深部注入を行っていない地域は「北陸」で 16.7%。「通常の人工授精と併用」21.5%と合わせても 38.2%にとどまっている。

［表 28］ 交配実施方法(%):地域別(n=738)

| | | 全国 | 北海道･東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 自然交配のみ | | 27.0 | 18.6 | 27.9 | 25.0 | 32.1 | 7.7 | 23.1 | 37.1 |
| 人工授精 | 自然交配が主、人工授精が従 | 27.2 | 30.1 | 29.2 | 40.0 | 23.5 | 53.8 | 30.8 | 15.4 |
| | 人工授精を主、自然交配が従 | 16.8 | 16.9 | 16.4 | 17.5 | 19.8 | 15.4 | 19.2 | 14.7 |
| | 人工授精のみ | 29.0 | 34.4 | 26.5 | 17.5 | 24.7 | 23.1 | 26.9 | 32.9 |
| | 小計 | 73.0 | 81.4 | 72.1 | 75.0 | 67.9 | 92.3 | 76.9 | 62.9 |




[図 15] 人工授精の実施状況（%）：地域別（n=738）




[図 16] 深部注入の実施状況（%）：地域別（n=497）

[表 29] 交配別の子取り用雌豚の比率(%)：地域別(n=712)

| | 全国 | 北海道･東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 自然交配のみで交配 (%) | 34.8 | 28.3 | 35.4 | 40.3 | 38.1 | 26.1 | 34.7 | 40.1 |
| 自然交配と人工授精を併用 (%) | 27.4 | 28.3 | 28.5 | 30.6 | 29.5 | 39.1 | 27.8 | 19.8 |
| 人工授精のみで交配 (%) | 37.8 | 43.4 | 36.1 | 29.1 | 32.4 | 34.8 | 37.5 | 40.1 |

## ◆精液

① 精液の入手方法は、子取り用雌豚規模別でみると「全て自家産」が「1,000 頭～」で 49.2%と最も高く、「全て外部から導入」が「1～19 頭」で 89.3%と最も高かった。規模が大きいほど、自家産の割合が増加している。

[表 30] 精液の導入方法(%):子取り用雌豚飼養規模別(n=514)

| | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全て自家産* | 28.8 | 6.9 | 14.3 | 11.6 | 22.9 | 32.4 | 42.9 | 49.2 |
| 全て外部**から導入 | 55.2 | 86.2 | 68.6 | 82.6 | 61.5 | 51.0 | 37.6 | 25.4 |
| 自家産と外部導入の併用 | 16.0 | 6.9 | 17.1 | 5.8 | 15.6 | 16.6 | 19.5 | 25.4 |

*自家産：同一経営の別農場産も含む　**外部：都道府県試験場、民間人工授精所等

## ◆人工授精について

① 人工授精の動向は、「今後も実施」が年代別で「20 代」100%、子取り用雌豚規模別で「1,000 頭～」100%と、年代が若いほど・規模が大きいほど継続の意向がみられた。

② 「今後も実施」希望の回答者にさらに意向をたずねたところ、「人工授精の割合を増やしたい」が 23.3%、「人工授精の割合を維持したい」が 74.9%、「人工授精の割合を縮小したい」が 1.8%となっている。

[表 31] 人工授精実施経営体の今後の意向(%):年代別(n=581)

| | 全年代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 | 90代 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 今後も実施 | 80.0 | 100.0 | 81.0 | 86.5 | 79.7 | 80.6 | 71.6 | 55.6 | 50.0 |
| 中止したい | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 導入予定 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 0.5 | 3.0 | 0.0 | 0.0 |
| 導入を検討 | 7.7 | 0.0 | 11.9 | 6.7 | 8.7 | 6.0 | 9.0 | 22.2 | 0.0 |
| 導入は考えていない | 11.2 | 0.0 | 7.1 | 6.7 | 10.1 | 12.4 | 16.4 | 22.2 | 50.0 |

[表 32] 人工授精実施経営体の今後の意向(%):子取り用雌豚飼養規模別(n=640)

| | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 今後も実施 | 80.2 | 61.7 | 61.1 | 62.7 | 73.6 | 92.6 | 95.1 | 100.0 |
| 中止したい | 0.3 | 0.0 | 3.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 導入予定 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 2.0 | 0.0 | 0.6 | 1.2 | 0.0 |
| 導入を検討 | 7.2 | 6.4 | 7.4 | 12.7 | 14.0 | 3.1 | 3.7 | 0.0 |
| 導入は考えていない | 11.7 | 31.9 | 27.8 | 22.6 | 12.4 | 3.7 | 0.0 | 0.0 |

# 飼料について

## ◆飼料内容

① 飼料給与体系をみると、「市販飼料のみ」が 78.5%と最も多く、次いで「市販配合飼料+自家配合飼料」が 15.7%、「自家配合飼料のみ」が 5.8%となっている。

② 地域別の割合をみると、すべての地域で「市販飼料のみ」の割合が高い。なかでも「中国・四国」が 86.2%で最も多く、「近畿」が 35.0%と最も少ない。

③ 「市販配合飼料+自家配合飼料」は「近畿」が 45.0%と最も多く、「中国・四国」10.3%と最も少ない。また「自家配合飼料のみ」は「近畿」が 20.0%と最も多く、「北海道・東北」が 1.5%で最も少ない。

**[表 33] 飼料給与の状況(%):地域別(n=800)**

| | 全体 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 市販配合飼料のみ* | 78.5 | 84.7 | 76.9 | 71.4 | 71.7 | 35.0 | 86.21 | 81.4 |
| 市販配合飼料＋自家配合飼料 | 15.7 | 13.8 | 16.4 | 21.4 | 21.2 | 45.0 | 10.34 | 11.2 |
| 自家配合飼料のみ** | 5.8 | 1.5 | 6.7 | 7.2 | 7.1 | 20.0 | 3.45 | 7.4 |

＊ 市販配合飼料のみ（配合割合等を指定してメーカーに配合させたものを含む）、**単味飼料等（エコフィードを含む）の原料を調達して自ら配合・調整したもの

**[表 34] 飼料の給与内容:地域別(n=726)**

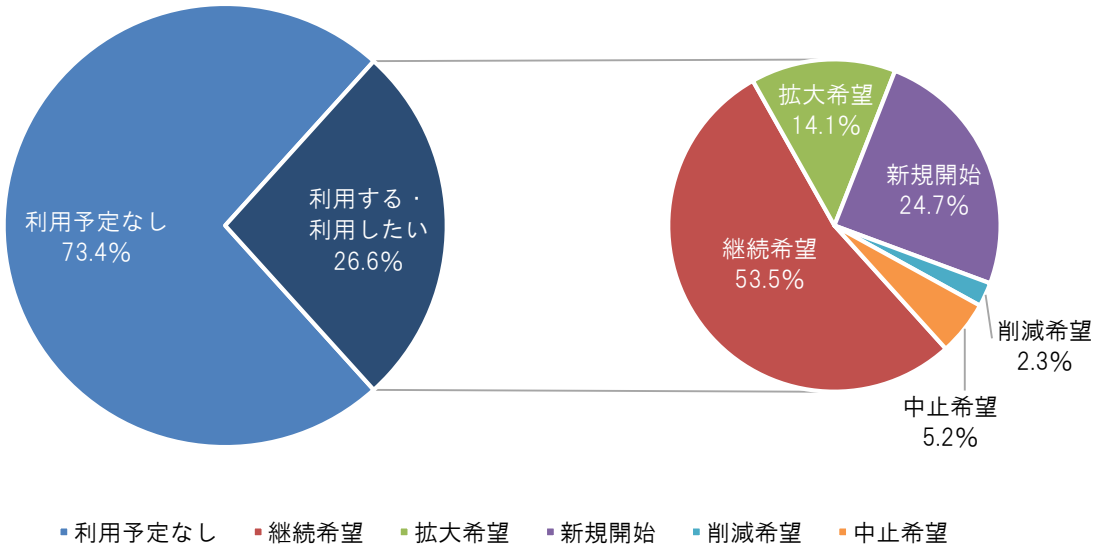
| | | 全体 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 配合飼料 | 合計数量（千ｔ） | 2,051.9 | 670.3 | 472.3 | 48.7 | 121.6 | 11.5 | 161.7 | 565.8 |
| | 数量割合（%） | 88.9 | 94.9 | 82.4 | 96.3 | 71.8 | 61.1 | 92.3 | 92.0 |
| | 平均数量（ｔ） | 2,922.9 | 3,603.5 | 2,373.4 | 1,250.0 | 1,666.2 | 764.1 | 3,109.4 | 4,099.8 |
| 飼料用米 | 合計数量（千ｔ） | 27.7 | 13.6 | 4.2 | 1.0 | 1.2 | 0.0 | 5.5 | 2.14 |
| | 数量割合（%） | 1.2 | 1.9 | 0.7 | 2.0 | 0.7 | 0.0 | 3.2 | 0.3 |
| | 平均数量（ｔ） | 318.0 | 616.0 | 245.1 | 51.2 | 137.2 | 0.5 | 616.3 | 237.6 |
| エコフィード | 合計数量（千ｔ） | 211.6 | 18.9 | 93.0 | 0.9 | 46.6 | 6.2 | 3.7 | 42.4 |
| | 数量割合（%） | 9.2 | 2.7 | 16.2 | 1.7 | 27.5 | 32.9 | 2.1 | 6.9 |
| | 平均数量（ｔ） | 2,181.6 | 1,349.0 | 2,906.3 | 172.4 | 3,104.1 | 772.8 | 613.7 | 2,496.4 |
| ・割合（%） | | 45.0 | 45.0 | 45.0 | 45.0 | 45.0 | 45.0 | 45.0 | 45.0 |
| ・食品残さ受け入れ数量（ｔ） | | 131.0 | 11.0 | 93.4 | 0.5 | 6.3 | 1.7 | 0.9 | 17.3 |
| | 平均数量（ｔ） | 3,742.5 | 1,575.9 | 8,489.5 | 250.0 | 1,568.3 | 833.5 | 850.0 | 2,160.4 |
| その他 | 合計数量（千ｔ） | 16.8 | 3.5 | 3.5 | 0.0 | 0.1 | 1.1 | 4.3 | 4.3 |
| | 数量割合（%） | 0.7 | 0.5 | 0.6 | 0.0 | 0.04 | 6.0 | 2.4 | 0.7 |
| | 平均数量（ｔ） | 599.4 | 380.0 | 690.4 | 0.0 | 32.5 | 281.5 | 1426.1 | 888.4 |
| 合計（千ｔ） | | 2,307.9 | 706.2 | 572.9 | 50.6 | 169.5 | 18.8 | 175.2 | 614.6 |

## ◆飼料用米

① 飼料用米の今後の利用意向についてみると、「利用する・利用したい」が 26.6%、「利用予定なし」が 73.4%であった。

② 「新規開始」の割合では「近畿」が 50.0%と最も多く、次いで「九州・沖縄」が 42.1%となっている。また、「利用継続」は、「北陸」63.6%が最も多く、次いで「関東」58.3%、「北海道・東北」56.5%となっている。「利用拡大」も、33.3%と最も割合が高かったのは「北陸」だった。

③ 希望使用量については、「利用継続」では「北海道・東北」の 640.1 t、「利用拡大」では「中国・四国」の 1,600 t、「新規開始」では「近畿」の 501.0 t がそれぞれ最も高い数字となっている。




[図 17] 飼料用米利用の意向：全国(n=639)

[表 35] 飼料用米利用の意向：地域別(n=170)

| | | 全体 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 利用継続 | 割合（%） | 53.5 | 56.5 | 58.3 | 63.6 | 50.0 | 50.0 | 53.8 | 26.3 |
| | 希望使用量（t） | 368.7 | 640.1 | 301.3 | 45.3 | 165.7 | 0.5 | 639.4 | 266.2 |
| 利用拡大 | 割合（%） | 14.1 | 13.0 | 4.2 | 18.2 | 33.3 | 0.0 | 7.7 | 26.3 |
| | 希望使用量（t） | 375.4 | 450.0 | 50.0 | 128.3 | 220.5 | 0.0 | 1,600.0 | 475.0 |
| 新規開始 | 割合（%） | 24.7 | 28.3 | 27.1 | 0.0 | 16.7 | 50.0 | 23.1 | 42.1 |
| | 希望使用量（t） | 214.4 | 203.7 | 298.2 | 0.0 | 50.0 | 501.0 | 20.0 | 96.2 |
| 利用削減 | 割合（%） | 2.4 | 0.0 | 0.0 | 9.1 | 0.0 | 0.0 | 15.4 | 0.0 |
| | 希望使用量（t） | 7.0 | 0.0 | 0.0 | 2.0 | 0.0 | 0.0 | 12.0 | 0.0 |
| 中止希望（%） | | 5.3 | 2.2 | 10.4 | 9.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5.3 |
| 合計 | | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |

## ◆エコフィード

① エコフィードを利用している経営体は全体の 25.3%と約 1/4 が活用している。地域別では、「近畿」69.2%が最も高く、次いで「東海」33.8%、「関東」29.6%となっており、「北海道・東北」が 14.2%と最も低い。

② エコフィードの利用形態としては、「ドライフィーディング」が 30.7%と最も高かった。地域別でみると、「リキッドフィーディング」の実施率が最も高いのは「九州・沖縄」の 44.4%、ドライフィーディング率が高いのは「北陸」の 44.4%だった。

③ 今後のエコフィードの利用意向をみると、「利用したい」6.5%、「現在検討中」2.5%となっており、この「利用したい」と「現在検討中」の合計は 9.0%。前年の 12.4%をやや下回ってる。

④ 「現在検討中」の年間利用予定数量は、平均 533.9 t となっている。「利用したい」と「現在検討中」の合計をブロック別でみると、「中国・四国」が 14.7%と最も高く、次いで「関東」10.4%、「北海道・東北」9.4%となっており、全国的に約 0.5～1 割の生産者がエコフィードの活用を希望している。

[表 36] エコフィードの利用割合(%):地域別(n=580)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 利用あり | 25.3 | 14.2 | 29.6 | 25.7 | 33.8 | 69.2 | 27.3 | 22.6 |
| 利用なし | 74.7 | 85.8 | 70.4 | 74.3 | 66.2 | 30.8 | 72.7 | 77.4 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

[表 37] エコフィードの利用形態(%):地域別(n=122)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| リキッド | 29.5 | 28.6 | 27.1 | 0.0 | 33.3 | 41.7 | 14.3 | 44.4 |
| ドライ | 30.7 | 19.0 | 33.9 | 44.4 | 29.2 | 25.0 | 42.9 | 25.9 |
| 原料に含む配合飼料 | 29.5 | 38.1 | 28.8 | 55.6 | 25.0 | 25.0 | 21.4 | 25.9 |
| その他 | 10.2 | 14.3 | 10.2 | 0.0 | 12.5 | 8.3 | 21.4 | 3.7 |

[表 38] エコフィードの利用意向(%):地域別(n=475)

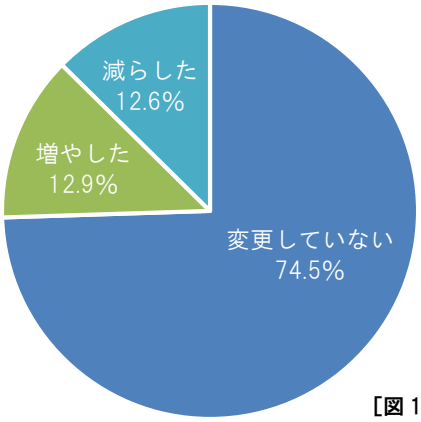
| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 現在、利用を検討中 | 2.5 | 2.0 | 2.4 | 3.7 | 2.2 | 0.0 | 2.9 | 3.3 |
| 年間利用予定数量（t） | 533.9 | 24.0 | 1,376.5 | 150.0 | 800.0 | 15.0 | 15.0 | 266.7 |
| 今後利用してみたい | 6.5 | 7.4 | 8.0 | 0.0 | 6.5 | 0.0 | 11.8 | 3.3 |
| 利用予定なし | 91.0 | 90.6 | 89.6 | 96.3 | 91.3 | 100.0 | 85.3 | 93.4 |

# 経営の推移と今後の動向

## ◆繁殖豚飼養頭数

① 繁殖豚飼養頭数は、前年同期と比較して「増やした」が 12.9%で、昨年度の 12.4%をわずかながら上回った。「減らした」は 12.4%と、こちらも昨年の 10.7%を上回った。最も多かった回答は「変更していない」の 74.7%だった。

② 頭数では、「増やした」が 6,799 頭、「減らした」が 3,002 頭で、増やした頭数が減らした頭数に比べて 3,797 頭多い。頭数ベースで増えているのは、地域別では「九州・沖縄」の 1,789 頭、子取り用雌規模別では「1,000 頭～」で 2,302 頭と全体増頭分の 1/3 以上となっている。




[図 18] 飼養頭数の推移:全国(n=698)

[表 39] 飼養頭数の推移:地域別(n=698)

| | | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 増やした | 回答割合（%） | 12.9 | 12.6 | 11.5 | 2.7 | 10.4 | 8.3 | 16.0 | 18.8 |
| | 頭増 | 6,799 | 1,227 | 2,035 | 0 | 222 | 40 | 1,486 | 1,789 |
| 変更していない | 回答割合（%） | 74.5 | 80.0 | 76.6 | 78.4 | 67.5 | 75.0 | 70.0 | 68.8 |
| 減らした | 回答割合（%） | 12.6 | 7.4 | 12.0 | 18.9 | 22.1 | 16.7 | 14.0 | 12.3 |
| | 頭減 | 3,002 | 481 | 794 | 101 | 481 | 13 | 47 | 1,085 |

[表 40] 飼養頭数の推移:子取り用雌豚飼養規模別(n=673)

| | | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 増やした | 回答割合（%） | 13.2 | 8.9 | 13.7 | 9.8 | 12.3 | 13.2 | 16.3 | 20.6 |
| | 頭増 | 5,699 | 14 | 184 | 143 | 524 | 1,210 | 1,322 | 2,302 |
| 変更していない | 回答割合（%） | 74.4 | 64.3 | 75.3 | 70.5 | 74.6 | 80.5 | 77.5 | 69.8 |
| 減らした | 回答割合（%） | 12.3 | 26.8 | 11.0 | 19.6 | 13.1 | 6.3 | 6.3 | 9.5 |
| | 頭減 | 2,853 | 158 | 128 | 283 | 341 | 767 | 821 | 355 |

## ◆繁殖豚飼養頭数増減の理由

① 繁殖豚頭数を増やした理由で最も高いのは、「計画していた豚舎が完成したため」の 38.0%。次いで「1 頭当たりの収益性が低下したため」が 17.4%、「生産を縮小していたのを元に戻した」が 16.3%、「後継者が経営に参加したため」が 8.7%となっている。

② 繁殖豚の頭数を減らした理由で最も高いのは、「老齢化で労働が厳しくなったため」の 24.7%で、次いで「労働力が確保できなくなったため」の 17.6%となっている。

[表 41] 増頭の理由(%):複数回答可・地域別(n=92)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 計画していた豚舎が完成したため | 38.0 | 47.6 | 33.3 | 100.0 | 33.3 | 0.0 | 57.1 | 30.8 |
| 後継者が経営に参加したため | 8.7 | 9.5 | 18.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.8 |
| 1 頭当たりの収益性が低下したため | 17.4 | 14.3 | 18.5 | 0.0 | 22.2 | 100.0 | 0.0 | 19.2 |
| 委託、預託の農場を増やした | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 出荷元から増頭の要請があったため | 3.3 | 0.0 | 3.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 14.3 | 3.8 |
| 生産者の減少に伴う投資として | 2.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 7.7 |
| 生産を縮小していたのを元に戻した | 16.3 | 9.5 | 18.5 | 0.0 | 22.2 | 100.0 | 14.3 | 15.4 |
| その他 | 20.7 | 23.8 | 14.8 | 0.0 | 22.2 | 0.0 | 14.3 | 26.9 |

[表 42] 減頭の理由(%):複数回答可・地域別(n=85)

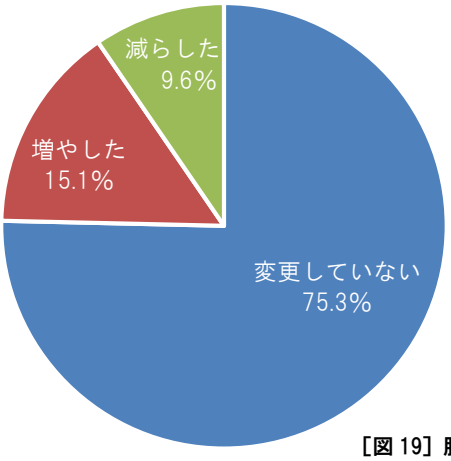
| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 疾病対策で豚を入れ替えるため | 15.3 | 16.7 | 25.0 | 0.0 | 17.6 | 0.0 | 0.0 | 12.5 |
| 生産費の高騰で儲からないため | 2.4 | 0.0 | 4.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 6.3 |
| 老齢化で労働が厳しくなったため | 24.7 | 8.3 | 20.8 | 0.0 | 52.9 | 50.0 | 37.5 | 12.5 |
| 労働力が確保できなくなったため | 17.6 | 0.0 | 25.0 | 50.0 | 17.6 | 0.0 | 12.5 | 12.5 |
| 委託、預託農場となるため | 1.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 6.3 |
| 廃業するため | 12.9 | 16.7 | 12.5 | 0.0 | 11.8 | 0.0 | 25.0 | 12.5 |
| 飼養システム・経営形態の変更 | 4.7 | 0.0 | 8.3 | 16.7 | 5.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 環境対策 | 8.2 | 0.0 | 12.5 | 0.0 | 17.6 | 0.0 | 0.0 | 6.3 |
| その他 | 37.6 | 58.3 | 25.0 | 66.7 | 17.6 | 50.0 | 50.0 | 43.8 |

## ◆肥育豚飼養頭数

① 肥育豚飼養頭数を前年同期と比較して、「増やした」が 15.1%、「変わらない」が 75.3%、「減らした」が 9.6%だった。

② これを頭数でみると、「増やした」が 58,741 頭、「減らした」が 22,728 頭で 36,013 頭増。増頭数では前年度の 34,434 頭を上回った。

③ 地域別では、「北陸」「東海」以外の地域では増頭数が減頭数を上回っている。規模別では「50～99 頭」のみ、減頭数が増頭数を上回った。




［図 19］肥育豚飼養頭数の推移：全国(n=690)

［表 43］肥育豚飼養頭数の推移：地域別(n=690)

| | | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 増やした | 回答割合（%） | 15.1 | 17.5 | 15.1 | 4.9 | 5.8 | 25.0 | 18.9 | 17.1 |
| | 頭増 | 58,741 | 18,093 | 14,419 | 14 | 1,770 | 2,089 | 5,806 | 16,550 |
| 変更していない | 回答割合（%） | 75.3 | 77.4 | 75.6 | 85.4 | 74.0 | 56.3 | 71.7 | 73.6 |
| 減らした | 回答割合（%） | 9.6 | 5.1 | 9.3 | 9.8 | 20.3 | 18.8 | 9.4 | 9.3 |
| | 頭減 | 22,728 | 3,403 | 6,519 | 847 | 2,831 | 195 | 500 | 8,433 |

［表 44］肥育豚飼養頭数の推移：地域別(n=608)

| | | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 増やした | 回答割合（%） | 15.3 | 15.6 | 18.6 | 13.3 | 10.2 | 16.2 | 19.4 | 18.6 |
| | 頭増 | 52,448 | 1,482 | 1,153 | 1,653 | 3,472 | 11,349 | 15,990 | 17,349 |
| 変更していない | 回答割合（%） | 75.2 | 66.7 | 71.2 | 73.5 | 81.1 | 76.4 | 73.6 | 74.6 |
| 減らした | 回答割合（%） | 75.2 | 17.8 | 10.2 | 13.3 | 8.7 | 7.4 | 6.9 | 6.8 |
| | 頭減 | 21,478 | 510 | 1,020 | 2,029 | 2,479 | 7,369 | 6,086 | 1,985 |

## ◆肥育豚飼養頭数増減の理由

① 肥育豚の頭数を増やした理由で最も高いのは、「計画していた豚舎が完成したため」の 32.4%で、次いで「1 頭当たりの収益性が低下したため」が 18.6%となっている。

② 地域別では、「関東」では 20.7%が「後継者が経営に参加したため」としている。「九州・沖縄」では「1 頭当たりの収益が低下したため」35.0%が「計画していた豚舎が完成したため」を上回った。

③ 肥育豚の頭数を減らした理由で最も高いのは、「老齢化で労働が厳しくなったため」が 23.2%で最も多く、次いで「労働力が確保できなくなったため」14.5%、「廃業するため」13.0%と続いている。

[表 45] 増頭の理由(%):複数回答可・地域別(n=102)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 計画していた豚舎が完成したため | 32.4 | 42.4 | 24.1 | 100.0 | 33.3 | 25.0 | 44.4 | 20.0 |
| 後継者が経営に参加したため | 8.8 | 6.1 | 20.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5.0 |
| 1 頭当たりの収益性が低下したため | 18.6 | 15.2 | 6.9 | 0.0 | 33.3 | 50.0 | 11.1 | 35.0 |
| 委託、預託の農場を増やした | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 出荷元から増頭の要請があったため | 7.8 | 0.0 | 13.8 | 0.0 | 0.0 | 25.0 | 11.1 | 10.0 |
| 生産者の減少に伴う投資として | 1.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5.0 |
| 生産を縮小していたのを元に戻した | 9.8 | 9.1 | 10.3 | 0.0 | 16.7 | 25.0 | 11.1 | 5.0 |
| その他 | 28.4 | 30.3 | 31.0 | 0.0 | 16.7 | 0.0 | 22.2 | 35.0 |

[表 46] 減頭の理由(%):複数回答可・地域別(n=69)

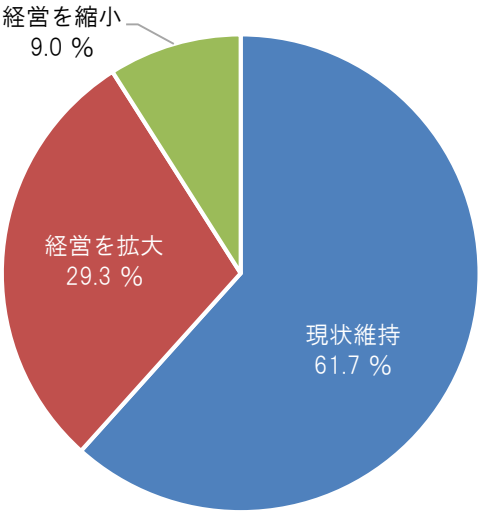
| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 疾病対策で豚を入れ替えるため | 5.8 | 0.0 | 5.0 | 0.0 | 14.3 | 0.0 | 0.0 | 8.3 |
| 生産費の高騰で儲からないため | 2.9 | 0.0 | 10.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 老齢化で労働が厳しくなったため | 23.2 | 20.0 | 15.0 | 0.0 | 42.9 | 66.7 | 33.3 | 8.3 |
| 労働力が確保できなくなったため | 14.5 | 0.0 | 20.0 | 50.0 | 14.3 | 0.0 | 16.7 | 8.3 |
| 委託、預託農場となるため | 2.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 16.7 |
| 廃業するため | 13.0 | 0.0 | 15.0 | 0.0 | 14.3 | 0.0 | 33.3 | 16.7 |
| 飼養システム・経営形態の変更 | 7.2 | 10.0 | 10.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 8.3 |
| 環境対策 | 10.1 | 0.0 | 15.0 | 0.0 | 28.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| その他 | 42.0 | 70.0 | 45.0 | 50.0 | 21.4 | 66.7 | 33.3 | 33.3 |

## ◆今後の養豚経営の意向

① 今後の養豚経営の意向は「経営を拡大」が 29.1%と前年度より 2.9%増加した。「現状維持」61.9%、「経営を縮小」が 9.0%と、「現状維持」の割合が減少し、「縮小」「拡大」の意向が増加している。

② 表 47、48、49 に、それぞれ年代別、後継者の有無別、地域別のデータを掲載した。年代では「40 代」～「60 代」、後継者の有無では「経営者が若い」、地域別では「北海道・東北」、「関東」で経営を拡大するとの回答が多かった。

③ 「経営を拡大する」との回答者では具体的に「今年中」「3 年以内」との回答がほぼ半数だった。




[図 20] 今後の養豚経営の意向:全国(n=797)

[表 47] 今後の養豚経営の意向:年代別(n=699)

| | | 全年代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 | 90代 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 経営を拡大する | 回答数 | 220 | 1 | 16 | 57 | 45 | 74 | 22 | 4 | 1 |
| | 割合(%) | 31.5 | 50.0 | 35.6 | 47.9 | 28.3 | 27.6 | 24.2 | 30.8 | 50.0 |
| 現状維持 | 回答数 | 416 | 1 | 28 | 60 | 102 | 160 | 57 | 7 | 1 |
| | 割合(%) | 59.5 | 50.0 | 62.2 | 50.4 | 64.2 | 59.7 | 62.6 | 53.8 | 50.0 |
| 経営を縮小 | 回答数 | 63 | 0 | 1 | 2 | 12 | 34 | 12 | 2 | 0 |
| | 割合(%) | 9.0 | 0.0 | 2.2 | 1.7 | 7.5 | 12.7 | 13.2 | 15.4 | 0.0 |
| 合計 | 回答数 | 699 | 2 | 45 | 119 | 159 | 268 | 91 | 13 | 2 |
| | 割合(%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

[表 48] 今後の養豚経営の意向:後継者有無別(n=773)

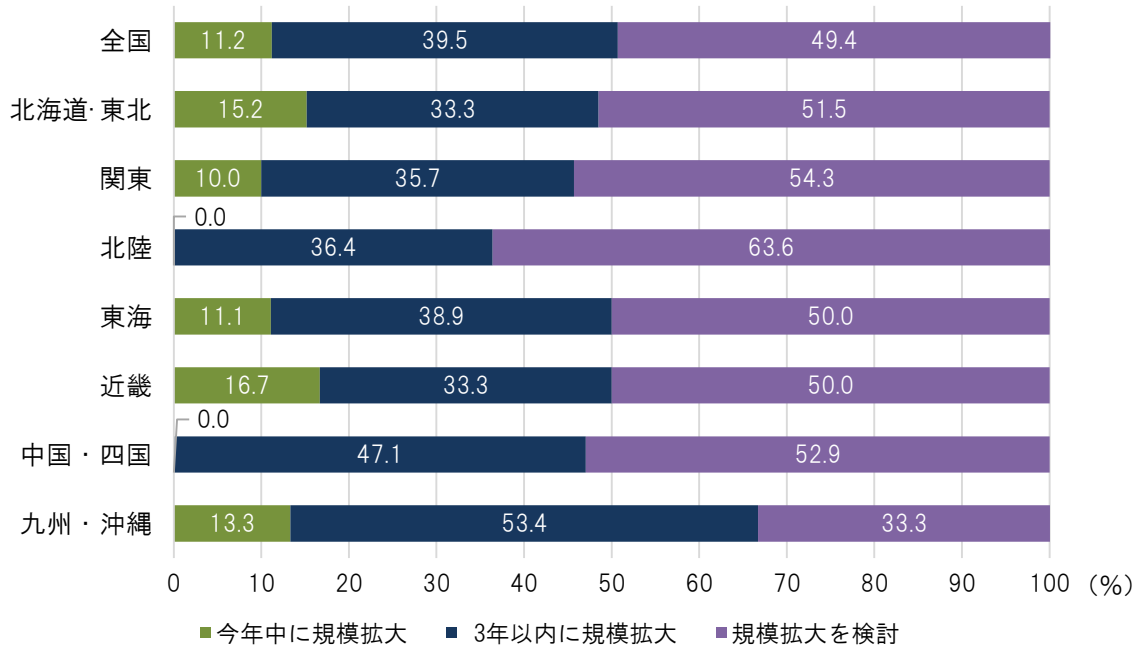
| | | 全回答 | 後継者あり | 候補あり未定 | 経営者が若い | 後継者なし | 経営体が異なる |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 経営を拡大する | 回答数 | 226 | 95 | 53 | 37 | 10 | 31 |
| | 割合(%) | 29.2 | 42.6 | 40.2 | 44.0 | 5.4 | 20.8 |
| 現状維持 | 回答数 | 476 | 122 | 68 | 46 | 125 | 115 |
| | 割合(%) | 61.6 | 54.7 | 51.5 | 54.8 | 67.6 | 77.2 |
| 経営を縮小 | 回答数 | 71 | 6 | 11 | 1 | 50 | 3 |
| | 割合(%) | 9.2 | 2.7 | 8.3 | 1.2 | 27.0 | 2.0 |
| 合計 | 回答数 | 699 | 2 | 45 | 119 | 159 | 268 |
| | 割合(%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

[表 49] 今後の養豚経営の意向：地域別(n=798)

| | | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 経営を拡大する(A) | 回答数 | 234 | 66 | 70 | 11 | 18 | 6 | 17 | 46 |
| | 割合(%) | 29.3 | 33.8 | 30.0 | 25.6 | 21.2 | 31.6 | 29.3 | 27.9 |
| 現状維持 | 回答数 | 492 | 118 | 144 | 28 | 54 | 11 | 35 | 102 |
| | 割合(%) | 61.7 | 60.5 | 61.8 | 65.1 | 63.5 | 57.9 | 60.3 | 61.8 |
| 経営を縮小(B) | 回答数 | 72 | 11 | 19 | 4 | 13 | 2 | 6 | 17 |
| | 割合(%) | 9.0 | 5.6 | 8.2 | 9.3 | 15.3 | 10.5 | 10.3 | 10.3 |
| 合計 | 回答数 | 798 | 195 | 233 | 43 | 85 | 19 | 58 | 165 |
| | 割合(%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

[表 50] 経営を拡大(表 49A)の内訳：地域別(n=234)

| | | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 今年中に規模拡大 | 回答数 | 26 | 10 | 7 | 0 | 2 | 1 | 0 | 6.0 |
| | 割合(%) | 11.2 | 15.2 | 10.0 | 0.0 | 11.1 | 16.7 | 0.0 | 13.3 |
| 3年以内に規模拡大 | 回答数 | 92 | 22 | 25 | 4 | 7 | 2 | 8 | 24.0 |
| | 割合(%) | 39.5 | 33.3 | 35.7 | 36.4 | 38.9 | 33.3 | 47.1 | 53.4 |
| 規模拡大を検討中 | 回答数 | 115 | 34 | 38 | 7 | 9 | 3 | 9 | 15.0 |
| | 割合(%) | 49.4 | 51.5 | 54.3 | 63.6 | 50.0 | 50.0 | 52.9 | 33.3 |
| 合計 | 回答数 | 233 | 66 | 70 | 11 | 18 | 6 | 17 | 45 |
| | 割合(%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |




[図 21] 経営を拡大(表 49A)の内訳(%)：地域別(n=234)

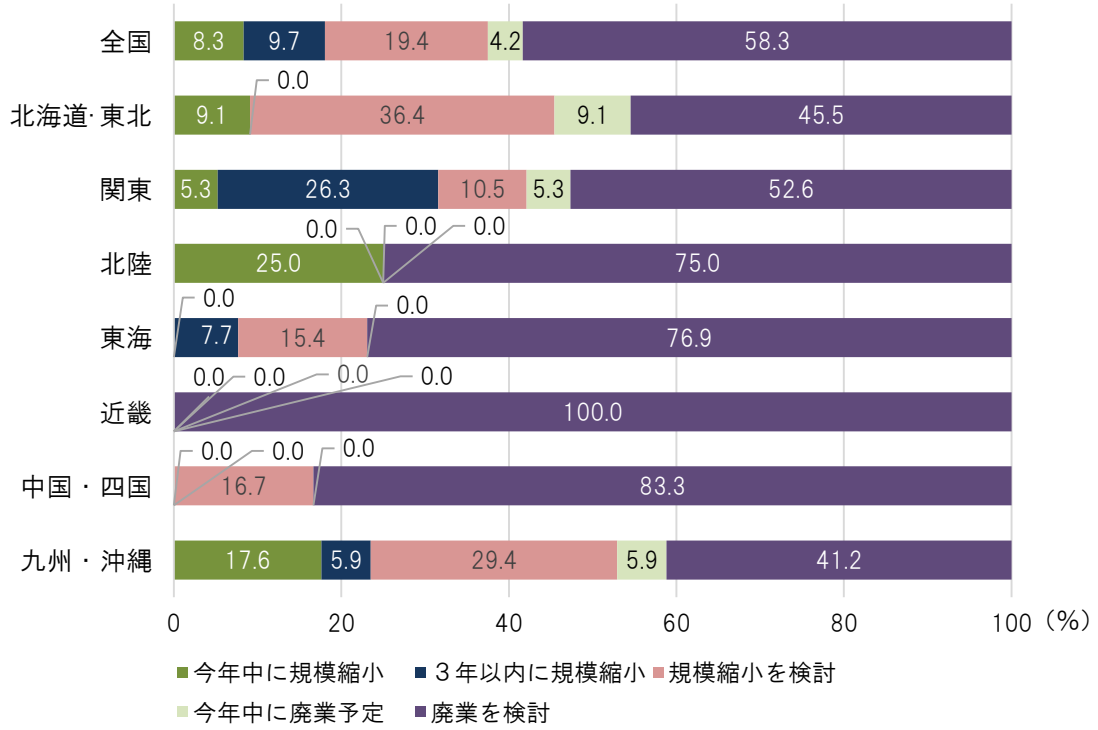
④　経営を縮小する意向の内訳をみると、「廃業を検討」が 58.3%で最も高く、「今年中に廃業する計画がある」4.2%を合わせた 45 経営体 62.5%が廃業を考えている。

⑤　地域別では、「関東」「九州・沖縄」「北海道・東北」で農場の縮小傾向がみられた。

⑥　表 52～54 には、子取り用雌豚規模別の経営動向をまとめている。

**[表 51] 経営を縮小(表 49B)の内訳:地域別(n=72)**

| | | 全国 | 北海道･東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 今年中に規模縮小 | 回答数 | 6 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 割合(%) | 8.3 | 9.1 | 5.3 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 17.6 |
| ３年以内に規模縮小 | 回答数 | 7 | 0 | 5 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| | 割合(%) | 9.7 | 0.0 | 26.3 | 0.0 | 7.7 | 0.0 | 0.0 | 5.9 |
| 規模縮小を検討 | 回答数 | 14 | 4 | 2 | 0 | 2 | 0 | 1 | 5 |
| | 割合(%) | 19.4 | 36.4 | 10.5 | 0.0 | 15.4 | 0.0 | 16.7 | 29.4 |
| 今年中に廃業予定（C） | 回答数 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 割合(%) | 4.2 | 9.1 | 5.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5.9 |
| 廃業を検討（D） | 回答数 | 42 | 5 | 10 | 3 | 10 | 2 | 5 | 7 |
| | 割合(%) | 58.3 | 45.5 | 52.6 | 75.0 | 76.9 | 100.0 | 83.3 | 41.2 |
| 合計 | 回答数 | 72 | 11 | 19 | 4 | 13 | 2 | 6 | 17 |
| | 割合(%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |




**[図 22] 経営を縮小(表 49B)の内訳(%):地域別(n=72)**

[表 52] 今後の養豚経営の意向:子取り用雌豚飼養規模別(n=702)

| | | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 経営を拡大する(A) | 回答数 | 215 | 3 | 9 | 22 | 48 | 54 | 38 | 41 |
| | 割合(%) | 30.6 | 5.2 | 11.8 | 18.6 | 34.5 | 32.7 | 46.3 | 64.1 |
| 現状維持 | 回答数 | 427 | 45 | 55 | 72 | 83 | 106 | 44 | 22 |
| | 割合(%) | 60.8 | 77.6 | 72.4 | 61.0 | 59.7 | 64.2 | 53.7 | 34.4 |
| 経営を縮小(B) | 回答数 | 60 | 10 | 12 | 24 | 8 | 5 | 0 | 1 |
| | 割合(%) | 8.5 | 17.2 | 15.8 | 20.3 | 5.8 | 3.0 | 0.0 | 1.6 |
| 合計 | 回答数 | 702 | 58 | 76 | 118 | 139 | 165 | 82 | 64 |
| | 割合(%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

[表 53] 経営を拡大(表 52A)の内訳:子取り用雌豚飼養規模別(n=215)

| | | 全国 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 今年中に規模拡大 | 回答数 | 25 | 0 | 0 | 1 | 3 | 7 | 6 | 8 |
| | 割合(%) | 11.7 | 0.0 | 0.0 | 4.5 | 6.3 | 13.2 | 15.8 | 19.5 |
| 3年以内に規模拡大 | 回答数 | 83 | 1 | 2 | 11 | 14 | 23 | 15 | 17 |
| | 割合(%) | 38.8 | 33.3 | 22.2 | 50.0 | 29.2 | 43.4 | 39.5 | 41.5 |
| 規模拡大を検討中 | 回答数 | 106 | 2 | 7 | 10 | 31 | 23 | 17 | 16 |
| | 割合(%) | 49.5 | 66.7 | 77.8 | 45.5 | 64.6 | 43.4 | 44.7 | 39.0 |
| 合計 | 回答数 | 233 | 66 | 70 | 11 | 18 | 6 | 17 | 45 |
| | 割合(%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

[表 54] 経営を縮小(表 52B)の内訳:子取り用雌豚飼養規模別(n=59)

| | | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 今年中に規模縮小 | 回答数 | 6 | 1 | 0 | 2 | 1 | 2 | 0 | 0 |
| | 割合(%) | 10.2 | 10.0 | 0.0 | 8.3 | 14.3 | 40.0 | 0.0 | 0.0 |
| ３年以内に規模縮小 | 回答数 | 6 | 1 | 2 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| | 割合(%) | 10.2 | 10.0 | 16.7 | 8.3 | 0.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 |
| 検討中 | 回答数 | 11 | 2 | 3 | 3 | 2 | 0 | 0 | 1 |
| | 割合(%) | 18.6 | 20.0 | 25.0 | 12.5 | 28.6 | 0.0 | 0.0 | 100.0 |
| 今年中に廃業予定 | 回答数 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 割合(%) | 3.4 | 0.0 | 0.0 | 4.2 | 14.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 廃業を検討 | 回答数 | 34 | 6 | 7 | 16 | 3 | 2 | 0 | 0 |
| | 割合(%) | 57.6 | 60.0 | 58.3 | 66.7 | 42.9 | 40.0 | 0.0 | 0.0 |
| 合計 | 回答数 | 59 | 10 | 12 | 24 | 7 | 5 | 0 | 1 |
| | 割合(%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 |

## ◆廃業

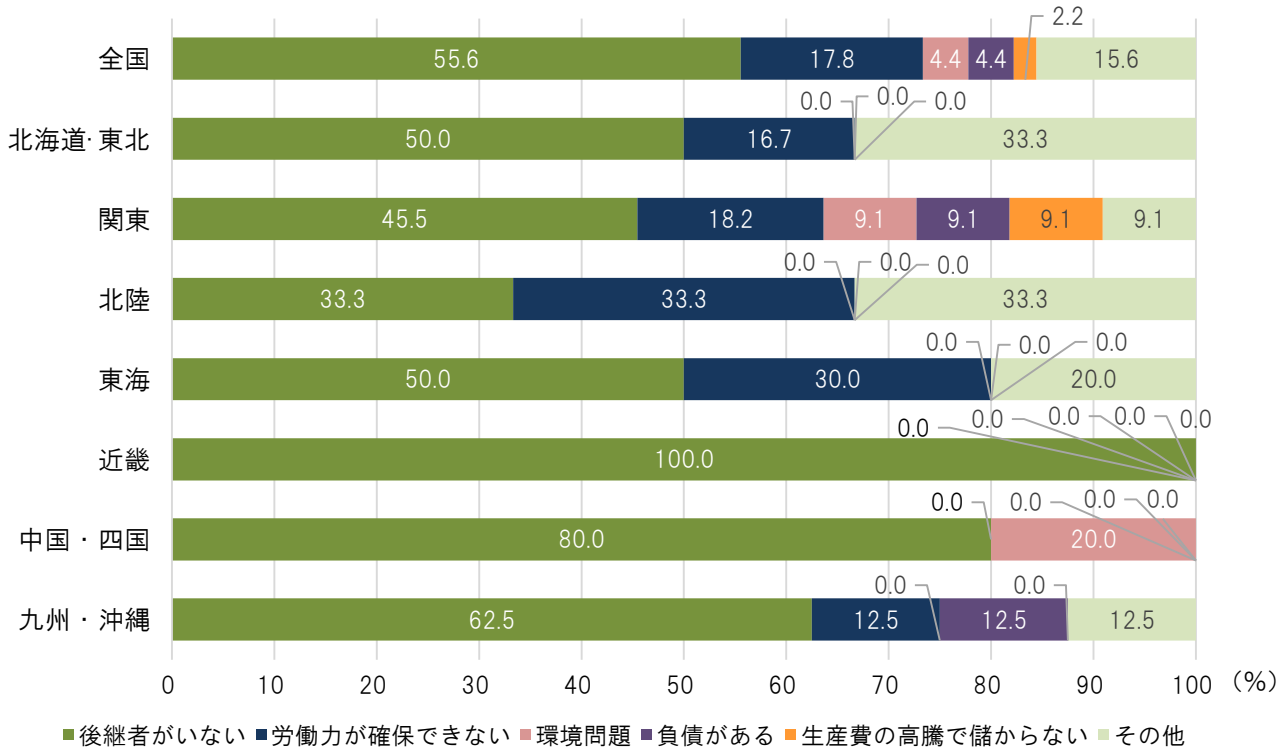
① 「廃業したいと考えている」または「廃業する計画がある」としては、その理由を回答した 46 経営体でみると、「後継者がいない」が 54.3%で最も高く、次いで「労働力が確保出来ない」17.4%となっている。

② 地域別にみると、「後継者がいない」の割合が最も高いのは、「近畿」100%、次いで「中国・四国」80%、「九州・沖縄」62.5%と続いている。

③ 「労働力が確保できない」の割合が高いのは、「北陸」33.3%、「東海」30.0%、「関東」18.2%となっている。

[表 55] 廃業予定・検討(表 51C、D)の廃業理由(経営体数):地域別(n=46)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 後継者がいない | 25 | 3 | 5 | 1 | 5 | 2 | 4 | 5 |
| 労働力が確保できない | 8 | 1 | 2 | 1 | 3 | 0 | 0 | 1 |
| 環境問題 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 負債がある | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 生産費の高騰で儲からない | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | 7 | 2 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 |
| 合計 | 45 | 6 | 11 | 3 | 10 | 2 | 5 | 8 |




[図 23] 廃業予定・検討(表 51C、D)の廃業理由(%):地域別(n=46)

## ◆生産コスト削減の取り組みについて

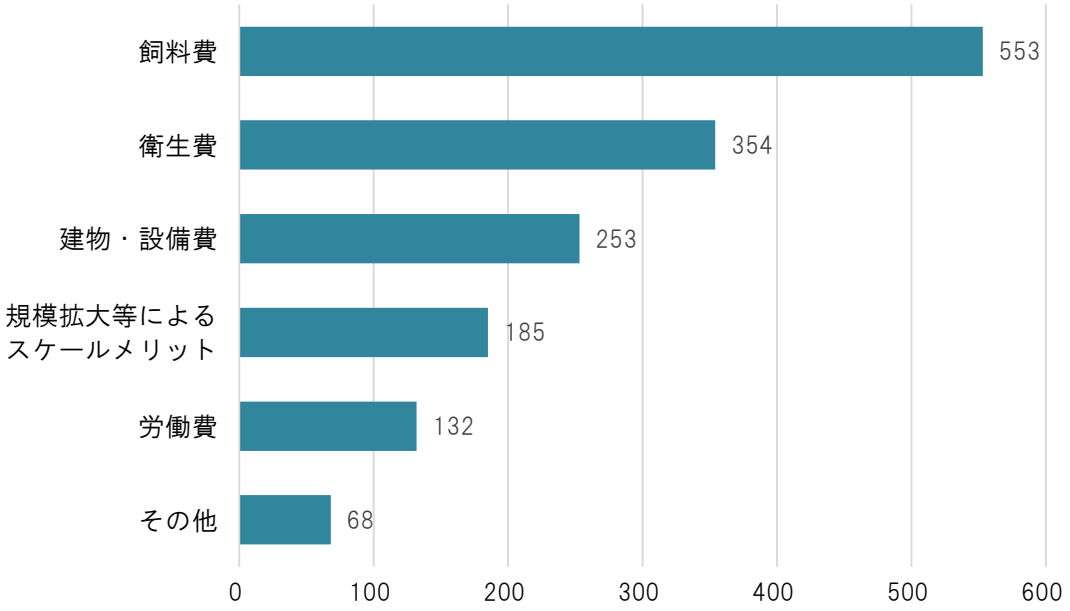
① 生産コスト削減の取り組みに重要と考える項目について、「飼料費」75.2%の割合が最も高く、次いで「衛生費」48.2%、「建物・設備費」34.4%、「規模拡大等によるスケールメリット」25.2%、「労働費」18.0%となっている。前年度もほぼ同様の比率となっており、大きな変動は見られない。

② 地域別にみると、「飼料費」については、「中国・四国」83.6%「北海道」78.3%、「北陸」76.9%、「九州・沖縄」75.7%が全国平均の割合を上回っている。「労働費」については「東海」26.7%、「中国・四国」25.5%、「北海道・東北」19.0%が全国平均より高く、「建物・設備費」は、「九州・沖縄」39.5%、「近畿」37.5%、「東海」36.0%、「北海道・東北」35.9%が全国平均を上回っている。

③ 「その他」の回答としては、「生産性向上」「疾病対策」「環境対策」などが挙げられた。

[表 56] 生産コスト削減の重要度(%):複数回答可・地域別(n=735)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 規模拡大等によるスケールメリット | 25.2 | 32.1 | 20.6 | 28.2 | 14.7 | 12.5 | 30.9 | 27.0 |
| 飼料費 | 75.2 | 78.3 | 72.4 | 76.9 | 69.3 | 68.8 | 83.6 | 75.7 |
| 労働費 | 18.0 | 19.0 | 14.5 | 17.9 | 26.7 | 6.3 | 25.5 | 15.8 |
| 衛生費 | 48.2 | 44.0 | 52.3 | 56.4 | 42.7 | 31.3 | 52.7 | 48.0 |
| 建物・設備費 | 34.4 | 35.9 | 34.6 | 28.2 | 36.0 | 37.5 | 16.4 | 39.5 |
| その他 | 9.3 | 9.2 | 10.7 | 15.4 | 8.0 | 18.8 | 9.1 | 5.3 |
| 合計 | 210.2 | 218.5 | 205.1 | 223.1 | 197.3 | 175.0 | 218.2 | 211.2 |




[図 24] 生産コスト削減の重要度(経営体数):複数回答可・全国(n=735)・上位順

## ◆経営管理の方法

① 経営管理の方法としては、野帳で管理しているが 46.5%、パソコンで管理しているが 60.3%と、ほぼ半々ながら、ややパソコン管理が上回った。地域性はあまりなく、年齢別では年代が上がるほど野帳管理の割合が増えている。規模別では規模が大きくなるほどパソコン管理の割合が増えている。

② 無回答があるため、A+B が「パソコンで管理している」とはなっていない。

**[表 57]経営管理の方法(%):複数回答可・地域別(n=733)**

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 野帳で管理している | 46.5 | 34.6 | 52.7 | 43.2 | 51.3 | 55.6 | 35.3 | 52.7 |
| パソコンで管理している | 60.3 | 69.8 | 55.5 | 67.6 | 51.3 | 44.4 | 76.5 | 55.4 |
| A 自農場の管理にのみデータ利用 | 29.7 | 29.6 | 29.5 | 21.6 | 28.8 | 27.8 | 51.0 | 25.7 |
| B 経営分析（ベンチマーク等）に活用 | 28.4 | 39.1 | 25.5 | 43.2 | 22.5 | 11.1 | 19.6 | 24.3 |
| 合計 | 106.8 | 104.5 | 108.2 | 110.8 | 102.5 | 100.0 | 111.8 | 108.1 |

**[表 58] 経営管理の方法(%):複数回答可・年代別(n=645)**

| | 全年代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 | 90代 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 野帳で管理している | 46.0 | 0.0 | 30.0 | 33.6 | 42.5 | 50.4 | 61.9 | 66.7 | 50.0 |
| パソコンで管理している | 60.5 | 100.0 | 85.0 | 71.8 | 61.4 | 55.4 | 50.0 | 33.3 | 50.0 |
| A 自農場の管理にのみデータ利用 | 28.4 | 50.0 | 37.5 | 27.3 | 27.5 | 27.7 | 29.8 | 16.7 | 50.0 |
| B 経営分析（ベンチマーク等）に活用 | 30.1 | 50.0 | 45.0 | 48.2 | 29.4 | 24.8 | 17.9 | 16.7 | 0.0 |
| 合計 | 106.5 | 100.0 | 115.0 | 105.5 | 103.9 | 105.8 | 111.9 | 100.0 | 100.0 |

**[表 59] 経営管理の方法(%):複数回答可・子取り用雌豚飼養規模別(n=648)**

| | 全国 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 野帳で管理している | 45.7 | 63.0 | 83.1 | 70.8 | 57.8 | 29.0 | 12.5 | 6.7 |
| パソコンで管理している | 62.0 | 37.0 | 26.2 | 38.7 | 54.7 | 78.7 | 87.5 | 103.3 |
| A 自農場の管理にのみデータ利用 | 29.9 | 33.3 | 23.1 | 24.5 | 25.8 | 32.3 | 40.0 | 33.3 |
| B 経営分析（ベンチマーク等）に活用 | 30.2 | 1.9 | 3.1 | 13.2 | 26.6 | 45.2 | 43.8 | 66.7 |
| 合計 | 107.7 | 100.0 | 109.2 | 109.4 | 112.5 | 107.7 | 100.0 | 110.0 |

# 衛生管理について

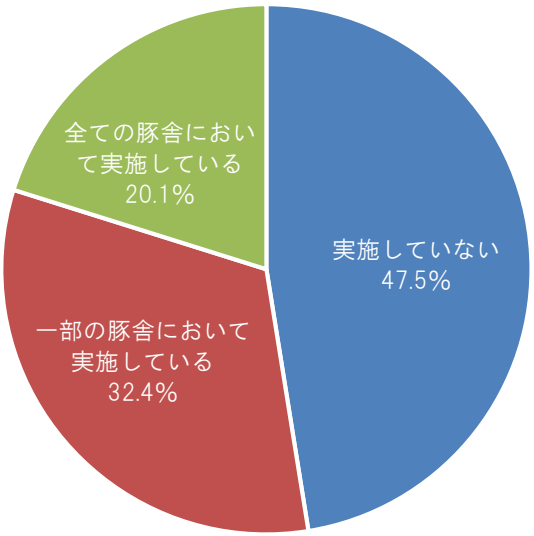
## ◆オールイン・オールアウト（AI/AO）の実施率

① AI・AO については、「全ての豚舎において実施している」が 20.1%、「一部の豚舎において実施している」が 32.4%、「実施してない」が 47.5%と最も多い。

② 地域別では、「近畿」の AI・AO 非実施率が最も高く 80.0%、次いで「北陸」の 61.0%となっている。

③ 規模別では、「50～99 頭」の AI・AO の非実施率が 77.4%と最も高く、規模の小さい農場では、スペースの問題や人的問題から実施が難しいことがうかがえる。

④ 逆に、「599～999 頭」では AI・AO 非実施率が 12.3%、「1,000 頭規模」では 6.3%と非常に低くなっている。




［図 25］AI･AO の実施率：全国(n=769)

［表 60］AI･AO の実施率(%)：地域別(n=769)

| | 全国 | 北海道･東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全ての豚舎において実施している | 20.1 | 29.2 | 13.1 | 12.2 | 19.1 | 5.0 | 12.7 | 22.6 |
| 一部の豚舎において実施している | 32.4 | 39.5 | 33.2 | 26.8 | 32.1 | 15.0 | 34.6 | 25.8 |
| 実施していない | 47.5 | 31.3 | 50.7 | 61.0 | 48.8 | 80.0 | 52.7 | 51.6 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

［表 61］AI･AO の実施率(%)：子取り用雌豚飼養規模別(n=680)

| | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全ての豚舎において実施している | 19.0 | 17.3 | 9.9 | 5.2 | 5.1 | 23.1 | 43.2 | 44.5 |
| 一部の豚舎において実施している | 33.8 | 9.6 | 14.1 | 17.4 | 36.9 | 48.1 | 44.5 | 49.2 |
| 実施していない | 47.2 | 73.1 | 76.0 | 77.4 | 58.0 | 28.8 | 12.3 | 6.3 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

## ◆ダウンタイムの実施率

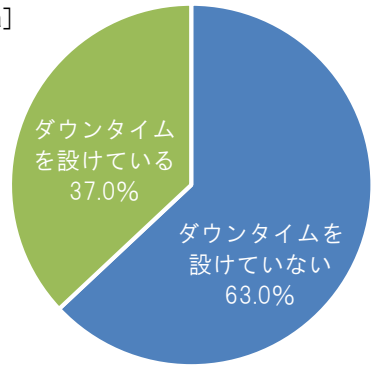
① ダウンタイムについては、「設けている」が37.0%、「設けていない」が63.0%と設けていない農場が6割に及ぶ。

② ダウンタイムの平均時間は52.9時間で、最大は360時間だった。

③ 地域別では、「北海道・東北」の実施割合が最も高く55.9%、ついで「中国・四国」の42.3%となっている。最も実施率が低いのは、「北陸」の82.1%で、次いで「近畿」の81.2%、「東海」の73.4%、「関東」の71.6%と続く。

④ 規模別では、飼養頭数が大きくなるほど実施率があがっていることがわかる。小規模で従業員数が少ない農場などでは、当然のことながら実施は難しい。

[a]




[b]

| | 平均値 | 最大値 | 最小値 |
|---|---|---|---|
| 時間 | 52.9 | 360 | 12 |

[図 26] a:ダウンタイムの実施率(%):全国(n=684)
b:ダウンタイムの平均値・最大値・最小値(時間):全国(n=684)

[表 62] ダウンタイムの実施率(%):地域別(n=684)

| | | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 設けている | 回答数 | 253 | 95 | 55 | 7 | 21 | 3 | 22 | 50 |
| | 割合（%） | 37.0 | 55.9 | 28.4 | 17.9 | 26.6 | 18.8 | 42.3 | 37.3 |
| 設けていない | 回答数 | 431 | 75 | 139 | 32 | 58 | 13 | 30 | 84 |
| | 割合（%） | 63.0 | 44.1 | 71.6 | 82.1 | 73.4 | 81.2 | 57.7 | 62.7 |
| 合計 | | 684 | 170 | 194 | 39 | 79 | 16 | 52 | 134 |

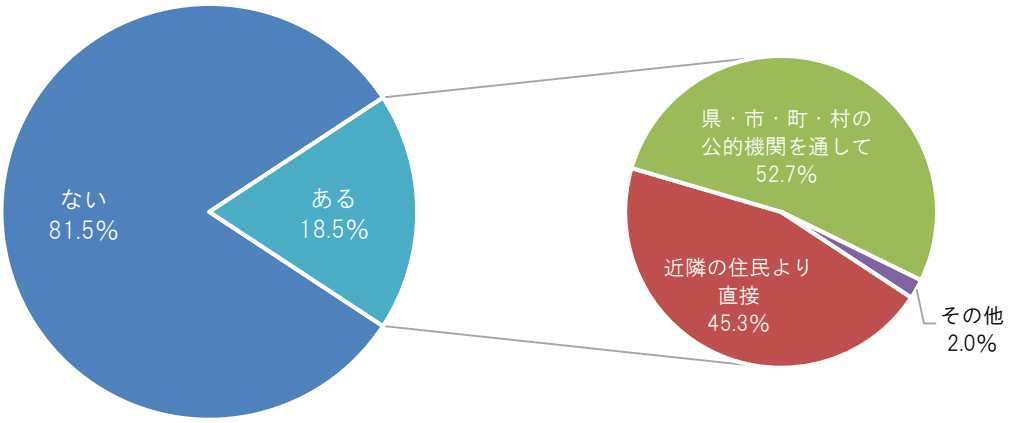
[表 63] ダウンタイムの実施率(%):子取り用雌豚飼養規模別(n=603)

| | | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 設けている | 回答数 | 234 | 8 | 12 | 15 | 24 | 64 | 59 | 52 |
| | 割合（%） | 38.8 | 17.8 | 21.4 | 15.0 | 21.1 | 42.1 | 78.7 | 85.2 |
| 設けていない | 回答数 | 369 | 37 | 44 | 85 | 90 | 88 | 16 | 9 |
| | 割合（%） | 61.2 | 82.2 | 78.6 | 85.0 | 78.9 | 57.9 | 21.3 | 14.8 |
| 合計 | | 603 | 45 | 56 | 100 | 114 | 152 | 75 | 61 |

# 環境対策について

## ◆近隣からの悪臭苦情の有無

① 全体では、「ある」と回答したのは 18.5%で、約２割程度の農場が苦情を受けたことがわかる。
② 苦情については、「県・市・町・村の公的機関を通して」が「ある」と回答した経営体の 52.7%、「近隣の住民より直接」が 45.3%で、ほぼ半々であった。
③ 地域別的には、「北陸」が最も「ある」と答えた割合が高く 33.3%。ただし、回答数が多くないため、件数としては大きいものではない。
④ 子取り用雌豚規模別では「1,000 頭～」が「ある」と答えた割合が最も高く 34.9%となっている。規模別では、規模が大きくなるほど苦情が増える傾向が見てとれる。
⑤ 経営形態別にみると、「ある」の割合が最も高いのは「農協直営」の 40.0%。一方で「個人経営」は 11.1%と低かった。
⑥ 経営タイプ別では、繁殖経営の「ある」の割合が 6.8%と最も低く、逆に「一貫経営」では 19.5%と最も高かった。




[図 27] 近隣からの悪臭苦情の有無：全国(n=799)

[表 64] 近隣からの悪臭苦情の有無(%)：地域別(n=799)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ある | 18.5 | 15.4 | 20.0 | 33.3 | 25.3 | 21.1 | 15.8 | 13.4 |
| a 近隣の住民より直接 | 45.3 | 51.6 | 44.7 | 13.3 | 42.1 | 50.0 | 66.7 | 52.2 |
| b 公的機関を通して | 52.7 | 48.4 | 53.2 | 80.0 | 57.9 | 50.0 | 33.3 | 43.5 |
| c その他 | 2.0 | 0.0 | 2.1 | 6.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 4.3 |
| 小計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| ない | 81.5 | 84.6 | 80.0 | 66.7 | 74.7 | 78.9 | 84.2 | 86.6 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

［表 65］ 近隣からの悪臭苦情の有無(%):子取り用雌豚飼養規模別(n=701)

| | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ある | 18.7 | 8.2 | 10.4 | 14.3 | 16.9 | 21.5 | 25.6 | 34.9 |
| a 近隣の住民より直接 | 44.6 | 60.0 | 25.0 | 37.5 | 43.5 | 36.1 | 57.1 | 57.1 |
| b 公的機関を通して | 53.1 | 40.0 | 62.5 | 62.5 | 52.2 | 63.9 | 38.1 | 42.9 |
| c その他 | 2.3 | 0.0 | 12.5 | 0.0 | 4.3 | 0.0 | 4.8 | 0.0 |
| 小計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| ない | 81.3 | 91.8 | 89.6 | 85.7 | 83.1 | 78.5 | 74.4 | 65.1 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

［表 66］ 近隣からの悪臭苦情の有無(%):経営形態別(n=797)

| | 全体 | 個人経営 | 農事組合法人 | 有限会社 | 合資会社合同会社 | 株式会社 | 農協直営 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ある | 18.6 | 11.1 | 22.2 | 22.7 | 0.0 | 26.8 | 40.0 | 5.3 |
| a 近隣の住民より直接 | 45.3 | 36.4 | 75.0 | 30.5 | 0.0 | 61.4 | 100.0 | 100.0 |
| b 公的機関を通して | 52.7 | 60.6 | 25.0 | 66.1 | 0.0 | 38.6 | 0.0 | 0.0 |
| c その他 | 2.0 | 3.0 | 0.0 | 3.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 小計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| ない | 81.4 | 88.9 | 77.8 | 77.3 | 100.0 | 73.2 | 60.0 | 94.7 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

［表 67］ 近隣からの悪臭苦情の有無(%):経営タイプ別(n=715)

| | 全体 | 一貫経営 | 繁殖経営 | 肥育経営 |
|---|---|---|---|---|
| ある | 18.6 | 19.5 | 6.8 | 18.8 |
| a 近隣の住民より直接 | 45.5 | 45.5 | 0.0 | 50.0 |
| b 公的機関を通して | 52.3 | 52.3 | 100.0 | 50.0 |
| c その他 | 2.3 | 2.3 | 0.0 | 0.0 |
| 小　　計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| ない | 81.4 | 80.5 | 93.2 | 81.2 |
| 合　　計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

## ◆排せつ物の処理方法

① 「ふん」の処理方法については、「堆肥化（開放式）」を主に実施しているのは 21.2%、付随的に実施しているのは 43.6%、「堆肥化（密閉式）」を主に実施しているのは 10.7%、付随的に実施しているのは 22.1%となっている。

② 「尿」の処理方法については、「浄化処理」を主に実施しているのが 28.1%、付随的に実施しているのが 51.7%となっている。

③ 「混合」の処理方法については、「堆肥化（開放式）」を主に実施しているのは 14.6%、付随的に実施しているのは 32.0%となっている。

④ 以下に、それぞれの処理方法の地域別・規模別の一覧を示す。

**[表 68] 排せつ物の処理方法(ふん、%):複数回答可・地域別(n=754)**

| | | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 堆肥化(開放式) | 主 | 21.2 | 28.6 | 24.4 | 28.2 | 12.5 | 12.5 | 14.3 | 13.3 |
| | 付随 | 43.6 | 39.8 | 41.0 | 35.9 | 38.8 | 62.5 | 53.1 | 52.1 |
| 堆肥化(密閉式) | 主 | 10.7 | 12.8 | 10.1 | 5.1 | 15.0 | 12.5 | 12.2 | 7.9 |
| | 付随 | 22.1 | 16.3 | 23.0 | 28.2 | 32.5 | 12.5 | 18.4 | 23.0 |
| 廃棄物として処理 | 主 | 0.3 | 0.0 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 |
| | 付随 | 0.5 | 0.5 | 0.0 | 2.6 | 0.0 | 0.0 | 2.0 | 0.6 |
| その他 | 主 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 付随 | 1.5 | 2.0 | 0.9 | 0.0 | 1.3 | 0.0 | 0.0 | 2.4 |
| 小計 | 主 | 32.2 | 41.3 | 35.0 | 33.3 | 27.5 | 25.0 | 26.5 | 21.8 |
| | 付随 | 67.8 | 58.7 | 65.0 | 66.7 | 72.5 | 75.0 | 73.5 | 78.2 |

**[表 69] 排せつ物の処理方法(ふん、%):複数回答可・子取り用雌豚飼養規模別(n=687)**

| | | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 堆肥化(開放式) | 主 | 20.8 | 20.0 | 29.8 | 15.6 | 25.4 | 16.3 | 22.5 | 21.3 |
| | 付随 | 43.4 | 60.0 | 52.6 | 59.4 | 46.3 | 36.0 | 33.7 | 30.3 |
| 堆肥化(密閉式) | 主 | 10.9 | 4.0 | 7.0 | 6.3 | 9.7 | 12.8 | 11.2 | 20.2 |
| | 付随 | 22.4 | 8.0 | 5.3 | 17.7 | 16.4 | 32.6 | 31.5 | 27.0 |
| 廃棄物として処理 | 主 | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.2 | 0.0 | 0.0 |
| | 付随 | 0.6 | 0.0 | 1.8 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 1.1 | 1.1 |
| その他 | 主 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 付随 | 1.6 | 8.0 | 3.5 | 1.0 | 2.2 | 0.6 | 0.0 | 0.0 |
| 小計 | 主 | 32.0 | 24.0 | 36.8 | 21.9 | 35.1 | 30.2 | 33.7 | 41.6 |
| | 付随 | 68.0 | 76.0 | 63.2 | 78.1 | 64.9 | 69.8 | 66.3 | 58.4 |

［表 70］ 排せつ物の処理方法(尿、%):複数回答可・地域別(n=698)

| | | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 液肥化処理 | 主 | 2.0 | 3.9 | 2.2 | 5.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 付随 | 7.4 | 8.5 | 10.0 | 0.0 | 4.8 | 37.5 | 7.3 | 3.4 |
| メタン発酵処理 | 主 | 0.3 | 1.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 付随 | 0.7 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 1.6 | 0.0 | 0.0 | 1.7 |
| 浄化処理 | 主 | 28.1 | 33.3 | 30.0 | 24.3 | 24.2 | 25.0 | 22.0 | 23.9 |
| | 付随 | 51.7 | 43.8 | 46.1 | 59.5 | 59.7 | 12.5 | 65.9 | 61.5 |
| 下水道処理 | 主 | 1.3 | 0.0 | 3.9 | 0.0 | 1.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 付随 | 2.7 | 0.0 | 3.9 | 5.4 | 0.0 | 25.0 | 2.4 | 3.4 |
| 廃棄物として処理 | 主 | 0.3 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.9 |
| | 付随 | 1.7 | 1.3 | 1.7 | 2.7 | 3.2 | 0.0 | 0.0 | 1.7 |
| その他 | 主 | 1.0 | 2.0 | 0.6 | 2.7 | 1.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 付随 | 2.8 | 4.6 | 1.7 | 0.0 | 3.2 | 0.0 | 2.4 | 3.4 |
| 小計 | 主 | 33.1 | 41.2 | 36.7 | 32.4 | 27.4 | 25.0 | 22.0 | 24.8 |
| | 付随 | 66.9 | 58.8 | 63.3 | 67.6 | 72.6 | 75.0 | 78.0 | 75.2 |

［表 71］ 排せつ物の処理方法(尿、%):複数回答可・子取り用雌豚飼養規模別(n=767)

| | | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 液肥化処理 | 主 | 2.2 | 5.9 | 5.0 | 0.0 | 1.7 | 2.8 | 2.6 | 0.0 |
| | 付随 | 7.2 | 8.8 | 12.5 | 1.5 | 11.9 | 4.1 | 1.3 | 1.7 |
| メタン発酵処理 | 主 | 0.2 | 2.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 付随 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 2.5 | 0.8 | 0.0 | 0.0 | 1.7 |
| 浄化処理 | 主 | 27.5 | 8.8 | 27.5 | 18.8 | 31.4 | 26.9 | 26.3 | 45.8 |
| | 付随 | 52.2 | 47.1 | 30.0 | 58.8 | 44.9 | 57.9 | 64.5 | 45.8 |
| 下水道処理 | 主 | 1.3 | 2.9 | 2.5 | 1.3 | 0.0 | 2.1 | 1.3 | 0.0 |
| | 付随 | 2.7 | 2.9 | 2.5 | 1.3 | 3.4 | 3.4 | 3.9 | 0.0 |
| 廃棄物として処理 | 主 | 0.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.8 | 0.7 | 0.0 | 0.0 |
| | 付随 | 1.6 | 5.9 | 10.0 | 0.0 | 0.8 | 1.4 | 0.0 | 0.0 |
| その他 | 主 | 1.1 | 5.9 | 2.5 | 0.0 | 0.8 | 0.0 | 0.0 | 3.4 |
| | 付随 | 2.9 | 8.8 | 7.5 | 5.0 | 3.4 | 0.7 | 0.0 | 1.7 |
| 小計 | 主 | 32.6 | 26.5 | 37.5 | 20.0 | 34.7 | 32.4 | 30.3 | 49.2 |
| | 付随 | 67.4 | 73.5 | 62.5 | 80.0 | 65.3 | 67.6 | 69.7 | 50.8 |

[表 72] 排せつ物の処理方法(混合、%):複数回答可・地域別(n=216)

| | | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 堆肥化（開放式） | 主 | 14.6 | 15.8 | 9.4 | 0.0 | 15.8 | 30.8 | 15.8 | 4.5 |
| | 付随 | 32.0 | 31.6 | 32.8 | 50.0 | 26.3 | 38.5 | 47.4 | 5.1 |
| 堆肥化（密閉式） | 主 | 2.3 | 1.8 | 1.6 | 0.0 | 0.0 | 7.7 | 5.3 | 0.6 |
| | 付随 | 6.8 | 8.8 | 6.3 | 0.0 | 15.8 | 7.7 | 5.3 | 0.6 |
| 液肥化処理 | 主 | 1.8 | 3.5 | 3.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 付随 | 5.0 | 5.3 | 6.3 | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.9 |
| メタン発酵処理 | 主 | 0.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5.3 | 0.0 | 5.3 | 0.0 |
| | 付随 | 2.3 | 0.0 | 4.7 | 0.0 | 5.3 | 0.0 | 0.0 | 0.6 |
| 浄化処理 | 主 | 3.7 | 5.3 | 3.1 | 0.0 | 5.3 | 0.0 | 5.3 | 0.6 |
| | 付随 | 16.9 | 19.3 | 17.2 | 12.5 | 21.1 | 0.0 | 5.3 | 5.7 |
| 下水道処理 | 主 | 0.5 | 0.0 | 1.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 付随 | 7.3 | 0.0 | 10.9 | 25.0 | 0.0 | 15.4 | 5.3 | 2.5 |
| 廃棄物として処理 | 主 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 付随 | 0.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.3 |
| その他 | 主 | 1.8 | 3.5 | 1.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 |
| | 付随 | 3.2 | 5.3 | 1.6 | 0.0 | 5.3 | 0.0 | 5.3 | 0.6 |
| 小計 | 主 | 25.6 | 29.8 | 20.3 | 0.0 | 26.3 | 38.5 | 31.6 | 25.6 |
| | 付随 | 74.4 | 70.2 | 79.7 | 100.0 | 73.7 | 61.5 | 68.4 | 74.4 |

[表 73] 排せつ物の処理方法(混合、%):複数回答可・地域別(n=181)

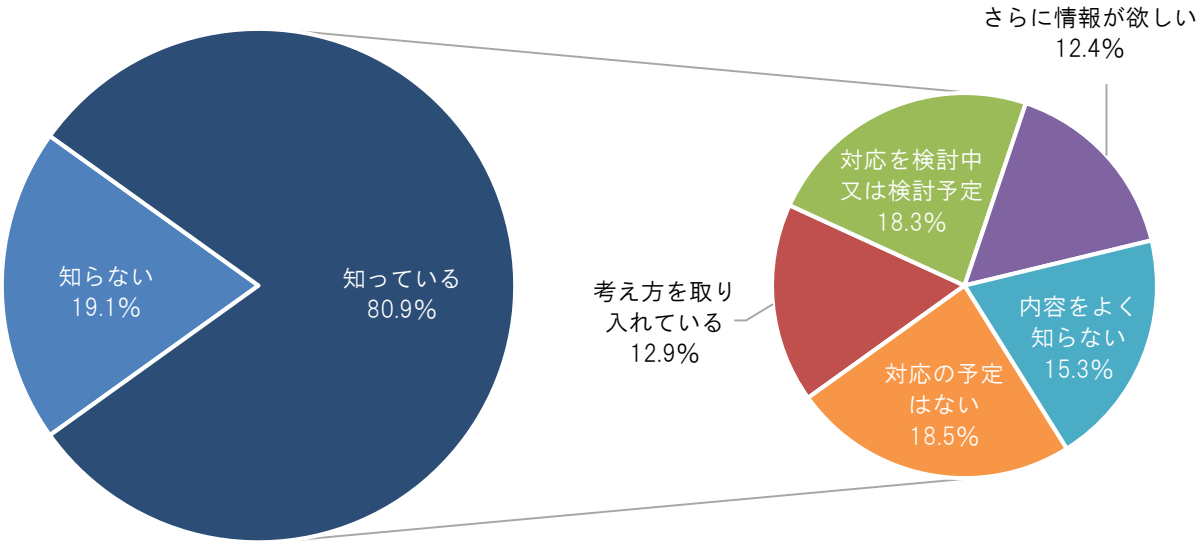
| | | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 堆肥化（開放式） | 主 | 12.7 | 15.0 | 16.7 | 12.5 | 21.7 | 8.1 | 10.7 | 5.9 |
| | 付随 | 32.0 | 35.0 | 37.5 | 40.6 | 26.1 | 32.4 | 25.0 | 23.5 |
| 堆肥化（密閉式） | 主 | 1.1 | 0.0 | 0.0 | 3.1 | 0.0 | 2.7 | 0.0 | 0.0 |
| | 付随 | 7.2 | 10.0 | 0.0 | 9.4 | 4.3 | 2.7 | 17.9 | 5.9 |
| 液肥化処理 | 主 | 2.2 | 10.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.6 | 5.9 |
| | 付随 | 6.1 | 0.0 | 12.5 | 6.3 | 4.3 | 8.1 | 7.1 | 0.0 |
| メタン発酵処理 | 主 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.6 | 0.0 |
| | 付随 | 2.2 | 5.0 | 0.0 | 6.3 | 0.0 | 2.7 | 0.0 | 0.0 |
| 浄化処理 | 主 | 3.9 | 0.0 | 4.2 | 0.0 | 0.0 | 8.1 | 3.6 | 11.8 |
| | 付随 | 17.1 | 10.0 | 8.3 | 12.5 | 17.4 | 16.2 | 17.9 | 47.1 |
| 下水道処理 | 主 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 3.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 付随 | 8.3 | 5.0 | 4.2 | 3.1 | 17.4 | 13.5 | 10.7 | 0.0 |
| 廃棄物として処理 | 主 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 付随 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 4.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| その他 | 主 | 2.2 | 5.0 | 4.2 | 3.1 | 4.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 付随 | 3.3 | 5.0 | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 5.4 | 0.0 | 0.0 |
| 小計 | 主 | 23.2 | 30.0 | 25.0 | 21.9 | 26.1 | 18.9 | 21.4 | 23.5 |
| | 付随 | 76.8 | 70.0 | 75.0 | 78.1 | 73.9 | 81.1 | 78.6 | 76.5 |

# アニマルウェルフェアについて

## ◆アニマルウェルフェアの認知度

① 経営体におけるアニマルウェルフェアの取り組みの状況については、アニマルウェルフェアを「知っている」が 80.9%、「知らない」が 19.1%となっている。「知っている」の内訳をみると、「飼養管理に考え方を取り入れている」12.9%、「対応を検討中」18.3%と両者あわせて 31.1%となっている。

② 地域別にみると、「飼養管理に考え方を取り入れている」、「対応を検討中」の合計は「北海道・東北」の 40.6%が最も高く、規模別では「1,000 頭～」の 66.2%が最も高くなっている。




[図 29] アニマルウェルフェアの認知度(%):全国(n=750)

[表 78] アニマルウェルフェアの認知度(%):地域別(n=750)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 知っている | 80.9 | 85.6 | 81.2 | 95.1 | 73.1 | 73.7 | 80.7 | 76.0 |
| 飼養管理に考え方を取り入れている | 12.9 | 18.7 | 13.3 | 9.8 | 7.7 | 10.5 | 12.3 | 9.3 |
| 飼養管理指針に従っている | 6.7 | 9.1 | 8.3 | 7.3 | 2.6 | 5.3 | 3.5 | 4.7 |
| 飼養管理指針に従っていない | 6.0 | 8.6 | 6.0 | 2.4 | 3.8 | 5.3 | 8.8 | 4.0 |
| 対応を検討中又は検討予定 | 18.0 | 21.9 | 17.4 | 17.1 | 19.2 | 0.0 | 15.8 | 16.7 |
| さらに情報が欲しい | 12.4 | 12.3 | 14.2 | 12.2 | 10.3 | 15.8 | 7.0 | 12.7 |
| 内容をよく知らない | 15.3 | 13.9 | 17.0 | 24.4 | 10.3 | 26.3 | 12.3 | 14.7 |
| 対応の予定はない | 18.5 | 17.1 | 16.1 | 31.7 | 20.5 | 15.8 | 22.8 | 18.0 |
| 知らない | 19.1 | 14.4 | 18.8 | 4.9 | 26.9 | 26.3 | 19.3 | 24.0 |

［表 79］アニマルウェルフェアの認知度（%）：子取り用雌豚飼養規模別（n=665）

| | 全国 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 知っている | 81.8 | 65.5 | 73.1 | 70.8 | 78.9 | 88.0 | 93.8 | 98.5 |
| 飼養管理に考え方を取り入れている | 13.7 | 18.2 | 9.0 | 8.5 | 9.0 | 13.3 | 19.8 | 26.2 |
| 飼養管理指針に従っている | 7.2 | 12.7 | 6.0 | 3.8 | 2.3 | 3.8 | 12.3 | 21.5 |
| 飼養管理指針に従っていない | 6.3 | 7.3 | 3.0 | 3.8 | 6.0 | 7.6 | 9.9 | 6.2 |
| 対応を検討中又は検討予定 | 18.5 | 10.9 | 11.9 | 14.2 | 9.8 | 21.5 | 25.9 | 40.0 |
| さらに情報が欲しい | 12.9 | 9.1 | 9.0 | 6.6 | 14.3 | 19.6 | 11.1 | 13.8 |
| 内容をよく知らない | 14.9 | 14.5 | 20.9 | 24.5 | 23.3 | 10.1 | 3.7 | 1.5 |
| 対応の予定はない | 18.8 | 12.7 | 22.4 | 16.0 | 18.8 | 20.9 | 23.5 | 13.8 |
| 知らない | 18.2 | 34.5 | 26.9 | 29.2 | 21.1 | 12.0 | 6.2 | 1.5 |

## ◆ストール利用

① 「繁殖用雌豚の飼養管理にストールを常用しているか」についての回答経営体の割合をみると、「している」91.6%となっており、「ストールを常用していない」（群飼育をしている）は 8.4%であった。

② 地域別にみると、群飼育の割合が「近畿」23.1%と多かった。子取り用雌豚規模別では、「1～19 頭」で最も群飼養の割合が高く、最も低いのは「500～999 頭」の 0%であった。

［表 80］ストールの利用率（%）：地域別（n=657）

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| はい | 91.6 | 89.8 | 93.9 | 91.7 | 86.3 | 76.9 | 91.7 | 95.1 |
| 群飼養を検討する | 10.0 | 11.4 | 9.1 | 5.6 | 4.1 | 7.7 | 12.5 | 13.8 |
| 群飼養を検討しない | 74.6 | 74.7 | 78.8 | 80.6 | 68.5 | 53.8 | 66.7 | 74.8 |
| いいえ（群飼育実施） | 8.4 | 10.2 | 6.1 | 8.3 | 13.7 | 23.1 | 8.3 | 4.9 |

［表 81］ストールの利用率（%）：子取り用雌豚飼養規模別（n=636）

| | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| はい | 91.8 | 59.1 | 73.4 | 95.1 | 96.0 | 96.2 | 100.0 | 98.5 |
| 群飼養を検討する | 10.2 | 11.4 | 4.7 | 18.4 | 5.6 | 11.5 | 7.6 | 10.8 |
| 群飼養を検討しない | 74.7 | 36.4 | 62.5 | 66.0 | 83.2 | 77.6 | 91.1 | 83.1 |
| いいえ（群飼育実施） | 8.2 | 40.9 | 26.6 | 4.9 | 4.0 | 3.8 | 0.0 | 1.5 |

## ◆去勢の実施

［表 82･83］ 去勢の実施率(%)：地域別(n=703)・子取り用雌豚飼養規模別(n=657)

| | 全国 | 北海道･東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| はい | 99.3 | 99.4 | 99.5 | 97.3 | 98.7 | 100.0 | 100.0 | 99.3 |
| いいえ | 0.6 | 0.6 | 0.5 | 0.0 | 1.3 | 0.0 | 0.0 | 0.7 |
| 一部で実施 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 2.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

| | 全国 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| はい | 99.4 | 98.1 | 100.0 | 99.1 | 99.2 | 99.4 | 100.0 | 100.0 |
| いいえ | 0.5 | 1.9 | 0.0 | 0.9 | 0.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 一部で実施 | 0.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.0 |

## ◆切歯の実施

［表 84･85］ 切歯の実施率(%)：地域別(n=684)・子取り用雌豚飼養規模別(n=703)

| | 全国 | 北海道･東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| はい | 63.6 | 66.7 | 59.5 | 45.9 | 75.0 | 56.3 | 64.6 | 65.0 |
| いいえ | 34.5 | 31.5 | 39.0 | 51.4 | 23.7 | 43.8 | 29.2 | 33.6 |
| 一部で実施 | 1.9 | 1.8 | 1.5 | 2.7 | 1.3 | 0.0 | 6.3 | 1.5 |

| | 全国 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| はい | 64.0 | 76.8 | 75.8 | 66.0 | 71.8 | 57.1 | 52.6 | 52.3 |
| いいえ | 34.3 | 19.6 | 24.2 | 33.0 | 27.5 | 41.7 | 46.1 | 41.5 |
| 一部で実施 | 1.7 | 3.6 | 0.0 | 1.0 | 0.8 | 1.3 | 1.3 | 6.2 |

## ◆断尾の実施

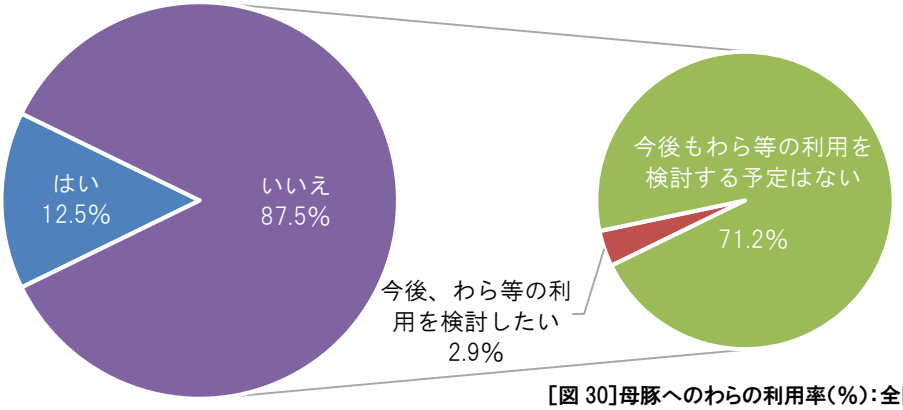
［表 86･87］ 断尾の実施率(%)：地域別(n=690)・子取り用雌豚飼養規模別(n=684)

| | 全国 | 北海道･東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| はい | 82.2 | 79.4 | 85.4 | 94.7 | 81.6 | 50.0 | 78.7 | 82.9 |
| いいえ | 16.5 | 20.0 | 11.7 | 5.3 | 18.4 | 50.0 | 19.1 | 16.4 |
| 一部で実施 | 1.3 | 0.6 | 2.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 2.1 | 0.7 |

| | 全国 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| はい | 82.2 | 36.8 | 60.6 | 76.2 | 93.1 | 89.9 | 97.4 | 95.4 |
| いいえ | 16.4 | 63.2 | 37.9 | 20.0 | 6.2 | 8.8 | 2.6 | 3.1 |
| 一部で実施 | 1.4 | 0.0 | 1.5 | 3.8 | 0.8 | 1.3 | 0.0 | 1.5 |

## ◆母豚へのわらの利用

① 母豚へのわらの利用は、87.5%が「利用していない」と回答した。地域別では、最もわらを利用しているのは「近畿」の 23.1%だった。




[図 30]母豚へのわらの利用率(%):全国(n=687)

[表 88] 母豚へのわらの利用率(%):地域別(n=687)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| はい | 12.5 | 16.5 | 11.1 | 5.4 | 10.7 | 23.1 | 20.4 | 8.8 |
| いいえ | 87.5 | 83.5 | 88.9 | 94.6 | 89.3 | 76.9 | 79.6 | 91.2 |
| a 利用を検討する | 2.9 | 2.4 | 1.4 | 0.0 | 2.7 | 7.7 | 4.1 | 5.9 |
| b 利用を検討しない | 71.2 | 72.4 | 72.0 | 73.0 | 74.7 | 61.5 | 67.3 | 68.4 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

## ◆飼料中の食物繊維・粗たんぱく質について

① 胃潰瘍を最小限とするために飼料中の食物繊維の増量・粗たんぱく質の低減した飼料給与をしているかを聞いたところ、「はい」との回答が 42.2%だった。

[表 89] 胃潰瘍に配慮した飼料給与の実施率(%):地域別(n=695)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| はい | 42.2 | 48.5 | 41.9 | 37.8 | 35.1 | 26.7 | 25.5 | 47.1 |
| いいえ | 26.5 | 24.3 | 22.9 | 24.3 | 27.3 | 40.0 | 36.2 | 30.0 |
| 分からない | 31.4 | 27.2 | 35.2 | 37.8 | 37.7 | 33.3 | 38.3 | 22.9 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

# 輸出について

## ◆輸出

① 輸出の取り組みについては、「既に輸出している」1.1%、「準備中」0.1%、「機会があれば輸出したい」6.0%、「販売・出荷した豚肉が輸出されたと聞いている」2.7%と、輸出をする、あるいは輸出希望との回答は 9.9%となった。

② 地域別では、最も輸出率の高いのは「近畿」5.9%で、次いで「北海道・東北」2.2%となっている。輸出の希望率が最も高いのは「近畿」17.6%、次いで「九州・沖縄」の 8.4%だった。

③ 「既に輸出している」との回答の輸出先として、シンガポール、香港、タイ、中国が挙げられた。

④ 「輸出について準備中」との回答の輸出予定先として、ベトナムが挙げられた。

⑤ 「機会があれば輸出したい」との回答の輸出として、アメリカ、シンガポール、ドバイ、中国、フィリピン、台湾、香港などが挙げられた。

⑥ 「販売・出荷した豚肉が輸出されたと聞いている」との回答の輸出先として、シンガポール、中国、台湾、香港、マレーシアが挙げられた。

**[表 90] 輸出の状況について(%):地域別(n=735)**

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 既に輸出している | 1.1 | 2.2 | 0.9 | 0.0 | 0.0 | 5.9 | 0.0 | 0.7 |
| 輸出について準備中 | 0.1 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 機会があれば輸出したい | 6.0 | 5.5 | 6.4 | 2.6 | 2.4 | 17.6 | 3.7 | 8.4 |
| 販売・出荷した豚肉が輸出されたと聞いている | 2.7 | 4.4 | 2.3 | 2.6 | 0.0 | 5.9 | 0.0 | 3.5 |
| 特に考えていない | 90.1 | 87.4 | 90.4 | 94.9 | 97.6 | 70.6 | 96.3 | 87.4 |

**[表 91] 輸出の状況について(%):子取り用雌豚飼養規模別(n=650)**

| | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 既に輸出している | 1.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.3 | 8.1 |
| 輸出について準備中 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.6 |
| 機会があれば輸出したい | 6.0 | 0.0 | 3.2 | 5.4 | 3.8 | 6.5 | 10.7 | 9.7 |
| 販売・出荷した豚肉が輸出されたと聞いている | 2.7 | 1.9 | 3.2 | 1.8 | 2.3 | 3.2 | 5.3 | 4.8 |
| 特に考えていない | 90.1 | 98.1 | 93.5 | 92.8 | 93.9 | 90.3 | 82.7 | 75.8 |

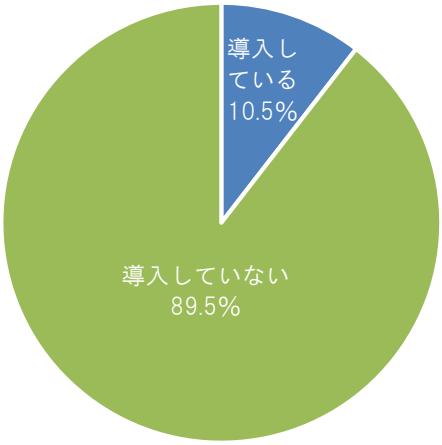
# 農場 HACCP・GAP について

## ◆HACCP 導入状況

① 農場 HACCP の導入について、導入している経営体は 10.5%となっており、地域別で最も導入率が高いのは「北海道・東北」の 12.0%、子取り用雌豚規模別では「1,000 頭～」の 31.7%が最も高い数値となっている。

② 農場 HACCP 未導入の回答では、「現在申請中」2.8%、「導入を検討」10.4%、「今後導入を検討」が 24.5%となっている。また、HACCP 導入予定はないが「JGAP 取得を検討」が 2.6%、「GAP チャレンジシステムに取組むことを検討」が 4.5%と、未導入の農場でも約半数が HACCP、GAP に取り組む意向があることが見てとれた。

③ 農場 HACCP 導入農場では、「すでに JGAP を取得している」との回答が 16.4%だった。




[図 31]HACCP の導入率(%):全国(n=724)

[表 92] HACCP の導入率(%):地域別(n=724)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 導入している | 10.5 | 12.0 | 11.8 | 10.0 | 8.5 | 5.9 | 3.8 | 10.9 |
| 導入していない | 89.5 | 88.0 | 88.2 | 90.0 | 91.5 | 94.1 | 96.2 | 89.1 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

[表 93] HACCP の導入率(%):子取り用雌豚飼養規模別(n=639)

| | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 導入している | 11.1 | 0.0 | 3.2 | 2.8 | 4.0 | 15.5 | 22.7 | 31.7 |
| 導入していない | 88.9 | 100.0 | 96.8 | 97.2 | 96.0 | 84.5 | 77.3 | 68.3 |
| 合計 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |

[表 94] HACCP 導入農場の動向(%):地域別(n=73)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| HACCPを現在申請中 | 2.8 | 1.3 | 4.5 | 0.0 | 1.5 | 0.0 | 6.1 | 2.7 |
| HACCP導入を検討中 | 10.4 | 11.8 | 13.0 | 2.9 | 6.0 | 7.7 | 20.4 | 5.4 |
| 今後HACCP導入を検討 | 24.5 | 30.1 | 22.6 | 20.6 | 16.4 | 23.1 | 32.7 | 22.5 |
| JGAP取得を検討 | 2.5 | 4.6 | 0.6 | 8.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.6 |
| GAPチャレンジシステムに取組むことを検討 | 4.5 | 3.9 | 6.8 | 5.9 | 4.5 | 0.0 | 2.0 | 2.7 |
| 導入予定はない | 55.3 | 48.4 | 52.5 | 61.8 | 71.6 | 69.2 | 38.8 | 63.1 |

[表 95] HACCP 導入農場の動向(%):子取り用雌豚飼養規模別(n=67)

| | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| HACCPを現在申請中 | 2.8 | 0.0 | 0.0 | 1.1 | 0.0 | 3.1 | 14.3 | 7.1 |
| HACCP導入を検討中 | 10.4 | 4.3 | 3.5 | 7.6 | 7.1 | 16.3 | 21.4 | 16.7 |
| 今後HACCP導入を検討 | 24.5 | 19.1 | 10.5 | 17.4 | 23.2 | 31.0 | 26.8 | 38.1 |
| JGAP取得を検討 | 2.5 | 2.1 | 1.8 | 1.1 | 1.8 | 4.7 | 0.0 | 7.1 |
| GAPチャレンジシステムに取組むことを検討 | 4.5 | 6.4 | 1.8 | 8.7 | 4.5 | 3.9 | 3.6 | 4.8 |
| 導入予定はない | 55.3 | 68.1 | 82.5 | 64.1 | 63.4 | 41.1 | 33.9 | 26.2 |

[表 96] HACCP 未導入農場の GAP 取得状況(%):地域別(n=604)

| | 全国 | 北海道・東北 | 関東 | 北陸 | 東海 | 近畿 | 中国・四国 | 九州・沖縄 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| すでに取得している | 16.4 | 22.7 | 30.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 取組んでいる | 31.5 | 31.8 | 17.4 | 33.3 | 57.1 | 0.0 | 0.0 | 46.7 |
| 取組むことを検討中 | 23.3 | 18.2 | 30.4 | 33.3 | 14.3 | 0.0 | 0.0 | 26.7 |
| 取組む予定はない | 28.8 | 27.3 | 21.7 | 33.3 | 28.6 | 100.0 | 100.0 | 26.7 |

[表 97] HACCP 未導入農場の GAP 取得状況(%):子取り用雌豚飼養規模別(n=535)

| | 全体 | 1～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1000頭～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| すでに取得している | 16.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 4.5 | 23.5 | 35.0 |
| 取組んでいる | 31.5 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 20.0 | 40.9 | 23.5 | 35.0 |
| 取組むことを検討中 | 23.3 | 0.0 | 50.0 | 0.0 | 40.0 | 27.3 | 17.6 | 20.0 |
| 取組む予定はない | 28.8 | 0.0 | 50.0 | 0.0 | 40.0 | 27.3 | 35.3 | 10.0 |